

蔣山万寿寺跡

旧万寿寺跡第6～10次調査

(第2分冊)

都市計画道路庄の原佐野線（元町工区）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

大分県立埋蔵文化財センター

目 次

(第1分冊)

序文 例言 目次

第1章 調査に至る経緯と経過 (横澤慈)

- 第1節 調査に至る経緯
- 第2節 旧万寿寺跡推定域の変更の経緯
- 第3節 発掘調査・報告書作成の経過
- 第4節 調査組織の構成

第2章 遺跡の立地と環境 (坂本嘉弘・横澤慈)

- 第1節 地理的環境
- 第2節 歴史的環境

第3章 旧万寿寺跡第6次調査 (横澤慈)

- 第1節 調査の概要
- 第2節 遺構と遺物

第4章 旧万寿寺跡第7次調査 (吉田寛)

- 第1節 調査の概要
- 第2節 遺構と遺物

(第2分冊)

第5章 旧万寿寺跡第8次調査 (吉田寛)	1
第1節 調査の概要	
第2節 遺構と遺物	
第6章 旧万寿寺跡第9次調査 (宮内克己)	154
第1節 調査の概要	
第2節 遺構と遺物	
第7章 旧万寿寺跡第10次調査 (吉田寛)	167
第1節 調査の概要	
第2節 遺構と遺物	
第8章 理化学分析・保存処理	387
第1節 旧万寿寺跡第7次調査出土一括出土銅銭の保存処理 (裨田優生)	
第9章 総括 (吉田寛・横澤慈)	391
遺物一覧表	409

(第3分冊)

写真図版

報告書抄録

插图 目次

第 5-1 图	田万寺寺跡第 8 次調査の位置 (1/15,000)	1	第 5-48 图	08SK070 実測図 (1/40)	46
第 5-2 图	田万寺寺跡第 8 次調査遺構配置図 (上層 1/200)	6	第 5-49 图	08SK070 出土遺物実測図① (1/3)	47
第 5-3 图	田万寺寺跡第 8 次調査遺構配置図 (下層 1/200)	7	第 5-50 图	08SK070 出土遺物実測図② (1/4)	48
第 5-4 图	田万寺寺跡第 8 次調査土層 (上層 1/100)	8	第 5-51 图	08SK070 出土遺物実測図③ (1/4)	49
第 5-5 图	柱穴状遺構土層① (1/40)	10	第 5-52 图	08SK070 出土遺物実測図④ (1/4)	50
第 5-6 图	柱穴状遺構土層② (1/40)	11	第 5-53 图	08SK070 出土遺物実測図⑤ (1/4)	51
第 5-7 图	柱穴状遺構出土遺物実測図① (1/3)	12	第 5-54 图	08SK070 出土遺物実測図⑥ (1/4)	52
第 5-8 图	柱穴状遺構出土遺物実測図② (1/3)	13	第 5-55 图	08SK070 出土遺物実測図⑦ (1/4)	53
第 5-9 图	08SD068・08SD139・08SD360 実測図 (1/80、1/50)	14	第 5-56 图	08SK070 出土遺物実測図⑧ (1/4)	54
第 5-10 图	08SD068 礎石実測図① (1/15)	15	第 5-57 图	08SK070 出土遺物実測図⑨ (1/4)	55
第 5-11 图	08SD068 礎石実測図② (1/15)	16	第 5-58 图	08SK073 実測図 (1/40)	56
第 5-12 图	08SD068 出土遺物実測図① (1/3)	18	第 5-59 图	08SK073 出土遺物実測図 (1/4)	56
第 5-13 图	08SD068 出土遺物実測図② (1/3)	19	第 5-60 图	08SK082 実測図 (1/50)	57
第 5-14 图	08SD068 出土遺物実測図③ (1/4)	20	第 5-61 图	08SK082 出土遺物実測図 (1/1、1/3)	57
第 5-15 图	08SD068 出土遺物実測図④ (1/4)	21	第 5-62 图	08SK083 実測図 (1/40)	58
第 5-16 图	08SD068 出土遺物実測図⑤ (1/4)	22	第 5-63 图	08SK083 出土遺物実測図 (1/3)	58
第 5-17 图	08SD068 出土遺物実測図⑥ (1/4)	23	第 5-64 图	08SK084 実測図 (1/30)	58
第 5-18 图	08SD068 出土遺物実測図⑦ (1/4)	24	第 5-65 图	08SK087 実測図 (1/30)	58
第 5-19 图	08SD068 出土遺物実測図⑧ (1/4)	25	第 5-66 图	08SK087 出土遺物実測図 (1/3、1/1)	59
第 5-20 图	08SD068 出土遺物実測図⑨ (1/1、1/2、1/4、1/6)	26	第 5-67 图	08SK088 実測図 (1/40)	60
第 5-21 图	08SD139 礎石実測図 (1/15)	27	第 5-68 图	08SK088 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	60
第 5-22 图	08SD139 出土遺物実測図① (1/3)	28	第 5-69 图	08SK090 実測図 (1/40)	61
第 5-23 图	08SD139 出土遺物実測図② (1/3、1/6)	29	第 5-70 图	08SK090 出土遺物実測図 (1/3)	61
第 5-24 图	08SD100・08SD117・08SD118・08SD168 実測図 (1/80、1/50)	30	第 5-71 图	08SK091 実測図 (1/40)	62
第 5-25 图	08SD100 出土遺物実測図① (1/3)	31	第 5-72 图	08SK091 出土遺物実測図 (1/3)	62
第 5-26 图	08SD100 出土遺物実測図② (1/3)	32	第 5-73 图	08SK092 実測図 (1/40)	62
第 5-27 图	08SD168 出土遺物実測図① (1/3)	34	第 5-74 图	08SK092 出土遺物実測図 (1/3)	62
第 5-28 图	08SD168 出土遺物実測図② (1/3)	35	第 5-75 图	08SK094・08SK095 実測図 (1/30)	63
第 5-29 图	08SD168 出土遺物実測図③ (1/3)	36	第 5-76 图	08SK095 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	63
第 5-30 图	08SD168 出土遺物実測図④ (1/3)	37	第 5-77 图	08SK103 実測図 (1/30)	63
第 5-31 图	08SD168 出土遺物実測図⑤ (1/4)	38	第 5-78 图	08SK103 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	64
第 5-32 图	08S085 出土遺物実測図① (1/3、1/2)	38	第 5-79 图	08SK104 実測図 (1/30)	65
第 5-33 图	08S085 出土遺物実測図② (1/1)	39	第 5-80 图	08SK104 出土遺物実測図 (1/4)	66
第 5-34 图	08SD117 出土遺物実測図 (1/3)	39	第 5-81 图	08SK106 実測図 (1/40)	67
第 5-35 图	08SD118 出土遺物実測図 (1/3)	40	第 5-82 图	08SK106 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	67
第 5-36 图	08SK051 実測図 (1/40)	41	第 5-83 图	08SK108 出土遺物実測図 (1/4)	67
第 5-37 图	08SK051 出土遺物実測図 (1/3、1/15)	41	第 5-84 图	08SK110 実測図 (1/40)	68
第 5-38 图	08SK052 実測図 (1/40)	41	第 5-85 图	08SK110 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	69
第 5-39 图	08SK053 実測図 (1/40)	41	第 5-86 图	08SK111 出土遺物実測図 (1/3)	69
第 5-40 图	08SK058 実測図 (1/40)	42	第 5-87 图	08SK113 実測図 (1/30)	70
第 5-41 图	08SK058 出土遺物実測図 (1/3)	42	第 5-88 图	08SK113 出土遺物実測図 (1/4)	70
第 5-42 图	08SK060 出土遺物実測図 (1/3)	43	第 5-89 图	08SK114 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	70
第 5-43 图	08SK061 出土遺物実測図 (1/3)	43	第 5-90 图	08SK129 出土遺物実測図 (1/3)	72
第 5-44 图	08SK062 実測図 (1/40)	43	第 5-91 图	08SK133 実測図 (1/40)	72
第 5-45 图	08SK062 出土遺物実測図① (1/4)	44	第 5-92 图	08SK133 出土遺物実測図 (1/3、1/4)	72
第 5-46 图	08SK062 出土遺物実測図② (1/3)	45	第 5-93 图	08SK134 出土遺物実測図 (1/3)	73
第 5-47 图	08SK063 出土遺物実測図 (1/3)	45	第 5-94 图	08SK136 実測図 (1/30)	73
			第 5-95 图	08SK136 出土遺物実測図 (1/3)	73
			第 5-96 图	08SK140 実測図 (1/30)	73
			第 5-97 图	08SK141 実測図 (1/30)	74

第 5-98 回	08-SK141 出土遺物実測図 (1/3)	74	第 5-152 回	08-SK264 出土遺物実測図 (1/3)	109
第 5-99 回	08-SK148 実測図 (1/30)	75	第 5-153 回	08-SK265 出土遺物実測図 (1/4)	109
第 5-100 回	08-SK148 出土遺物実測図 (1/3)	75	第 5-154 回	08-SK266 出土遺物実測図 (1/3)	110
第 5-101 回	08-SK153 実測図 (1/30)	75	第 5-155 回	08-SK267 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	110
第 5-102 回	08-SK155 出土遺物実測図 (1/3)	76	第 5-156 回	08-SK269 出土遺物実測図 (1/3)	110
第 5-103 回	08-SK156 実測図 (1/30)	76	第 5-157 回	08-SK270 実測図 (1/40)	111
第 5-104 回	08-SK167 実測図 (1/40)	77	第 5-158 回	08-SK270 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	112
第 5-105 回	08-SK167 出土遺物実測図① (1/3)	78	第 5-159 回	08-SK271 出土遺物実測図 (1/1, 1/3)	112
第 5-106 回	08-SK167 出土遺物実測図② (1/4)	79	第 5-160 回	08-SK273 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	113
第 5-107 回	08-SK169 実測図 (1/40)	80	第 5-161 回	08-SK274 出土遺物実測図 (1/4)	113
第 5-108 回	08-SK169 出土遺物実測図 (1/3)	80	第 5-162 回	08-SK276 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	114
第 5-109 回	08-SK176 出土遺物実測図 (1/1)	80	第 5-163 回	08-SK278 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	115
第 5-110 回	08-SK178 出土遺物実測図 (1/3)	81	第 5-164 回	08-SK285 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	116
第 5-111 回	08-SK185 出土遺物実測図 (1/3)	81	第 5-165 回	08-SK290 出土遺物実測図 (1/3)	117
第 5-112 回	08-SK186 実測図 (1/50)	81	第 5-166 回	08-SK300 実測図 (1/40)	117
第 5-113 回	08-SK186 出土遺物実測図① (1/3, 1/4)	82	第 5-167 回	08-SK300 出土遺物実測図 (1/3)	118
第 5-114 回	08-SK186 出土遺物実測図② (1/4)	83	第 5-168 回	08-SP064 実測図 (1/20)	119
第 5-115 回	08-SK191 実測図 (1/30)	84	第 5-169 回	08-SP245 実測図 (1/20)	119
第 5-116 回	08-SK191 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	84	第 5-170 回	柱穴出土遺物① (1/3, 1/4)	120
第 5-117 回	08-SK192 出土遺物実測図 (1/4)	85	第 5-171 回	柱穴出土遺物② (1/3)	120
第 5-118 回	08-SK193a・08-SK193b 実測図 (1/50)	86	第 5-172 回	08-SB400 実測図 (1/80)	121
第 5-119 回	08-SK193a 出土遺物実測図① (1/3)	87	第 5-173 回	08-ST134b 実測図 (1/40)	122
第 5-120 回	08-SK193a 出土遺物実測図② (1/3)	88	第 5-174 回	08-ST134b 出土遺物実測図 (1/3)	123
第 5-121 回	08-SK193a 出土遺物実測図③ (1/3)	89	第 5-175 回	08-ST305 実測図 (1/40)	123
第 5-122 回	08-SK193a 出土遺物実測図④ (1/4, 1/3)	90	第 5-176 回	08-ST305 出土遺物実測図 (1/3)	124
第 5-123 回	08-SK193a 出土遺物実測図⑤ (1/3)	91	第 5-177 回	08-SE152 実測図 (1/50)	125
第 5-124 回	08-SK193a 出土遺物実測図⑥ (1/4)	92	第 5-178 回	08-SE152 出土遺物実測図 (1/3)	126
第 5-125 回	08-SK193a 出土遺物実測図⑦ (1/4)	93	第 5-179 回	08-SE282 実測図① (1/50)	127
第 5-126 回	08-SK193a 出土遺物実測図⑧ (1/4)	94	第 5-180 回	08-SE282 実測図② (昇具, 1/30)	128
第 5-127 回	08-SK193 b出土遺物実測図① (1/3, 1/1)	95	第 5-181 回	08-SE282 出土遺物実測図① (1/3)	129
第 5-128 回	08-SK197 出土遺物実測図 (1/4)	96	第 5-182 回	08-SE282 出土遺物実測図② (1/3)	129
第 5-129 回	08-SK198 実測図 (1/40)	97	第 5-183 回	08-SE282 出土遺物実測図③ (1/4)	131
第 5-130 回	08-SK198 出土遺物実測図 (1/3)	97	第 5-184 回	08-SE282 出土遺物実測図④ (1/4, 1/3)	132
第 5-131 回	08-SK199 実測図 (1/30)	98	第 5-185 回	08-SX059 実測図 (1/10)	133
第 5-132 回	08-SK199 出土遺物実測図 (1/3)	98	第 5-186 回	08-SX059 出土遺物実測図 (1/3)	133
第 5-133 回	08-SK200 実測図 (1/30)	99	第 5-187 回	08-SX066 実測図 (1/30)	134
第 5-134 回	08-SK200 出土遺物実測図 (1/1)	99	第 5-188 回	08-SX066 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	134
第 5-135 回	08-SK201 実測図 (1/40)	100	第 5-189 回	08-SX086 実測図 (1/40)	135
第 5-136 回	08-SK201 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	100	第 5-190 回	08-SX086 出土遺物実測図 (1/3)	135
第 5-137 回	08-SK205 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	101	第 5-191 回	08-SX355 実測図 (1/30)	136
第 5-138 回	08-SK207 実測図 (1/30)	101	第 5-192 回	08-SX390 実測図 (1/30)	136
第 5-139 回	08-SK207 出土遺物実測図 (1/3, 1/1)	102	第 5-193 回	08-SX390 出土遺物実測図 (1/4)	137
第 5-140 回	08-SK208 出土遺物実測図 (1/4)	102	第 5-194 回	08-SX055 出土遺物実測図 (1/3)	138
第 5-141 回	08-SK228 出土遺物実測図 (1/3)	102	第 5-195 回	包含層・整地層出土遺物① (1/3)	140
第 5-142 回	08-SK230 実測図 (1/40)	103	第 5-196 回	包含層・整地層出土遺物② (1/3)	141
第 5-143 回	08-SK230 出土遺物実測図 (1/3, 1/4, 1/1)	104	第 5-197 回	包含層・整地層出土遺物③ (1/3)	142
第 5-144 回	08-SK232 実測図 (1/30)	104	第 5-198 回	包含層・整地層出土遺物④ (1/3)	143
第 5-145 回	08-SK232 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	105	第 5-199 回	包含層・整地層出土遺物⑤ (1/3)	144
第 5-146 回	08-SK238 出土遺物実測図 (1/3)	106	第 5-200 回	包含層・整地層出土遺物⑥ (1/3)	145
第 5-147 回	08-SK239 実測図 (1/30)	106	第 5-201 回	包含層・整地層出土遺物⑦ (1/3)	146
第 5-148 回	08-SK239 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	106	第 5-202 回	包含層・整地層出土遺物⑧ (1/1)	147
第 5-149 回	08-SK241 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	107	第 5-203 回	包含層・整地層出土遺物⑨ (1/4)	148
第 5-150 回	08-SK243 出土遺物実測図 (1/1)	108	第 5-204 回	包含層・整地層出土遺物⑩ (1/4)	149
第 5-151 回	08-SK263 出土遺物実測図 (1/3)	109	第 5-205 回	包含層・整地層出土遺物⑪ (1/4)	150

第5-206 回	包含層・整地層出土遺物② (1/4)	151	第7-29 回	10SD185 出土遺物実測図 (1/3)	200
第5-207 回	包含層・整地層出土遺物③ (1/4)	152	第7-30 回	10SD457 出土遺物実測図 (1/3)	200
第5-208 回	包含層・整地層出土遺物④ (1/4)	153	第7-31 回	10S270・10SD330・10SD338実測図 (1/200)	201
第6-1 回	田万寿寺跡第9次調査の位置 (1/15,000)	154	第7-32 回	10SD338 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	202
第6-2 回	田万寿寺跡第9次調査 遺構配置図 (1/200)	155	第7-33 回	10SD040・10SD045・10SD180・10SD218・10SD219・ 10SD223・10SD227実測図 (1/200, 1/60)	203
第6-3 回	09SD001 実測図 (1/80)	156	第7-34 回	10SD040 出土遺物実測図① (1/3)	204
第6-4 回	09SD001 出土遺物 (1/3)	157	第7-35 回	10SD040 出土遺物実測図② (1/4)	205
第6-5 回	09SK002 実測図 (1/40)	158	第7-36 回	10SD045 出土遺物実測図③ (1/4, 1/3)	206
第6-6 回	09SK002 出土遺物 (瓦1/3、釘2/3)	158	第7-37 回	10SD040 出土遺物実測図④ (1/1)	206
第6-7 回	09SK003 実測図 (1/40)	159	第7-38 回	10SD180 出土遺物実測図 (1/3, 1/4, 1/1)	207
第6-8 回	09SK003 出土遺物 (1~3 (1/3)、4~6 (2/3))	159	第7-39 回	10SD045 出土遺物実測図 (1/3, 1/1)	208
第6-9 回	09SK004 実測図 (1/20)	160	第7-40 回	10SD223 出土遺物実測図① (1/3, 1/4)	210
第6-10 回	09SK004 出土土器 (1/3)	160	第7-41 回	10SD223 出土遺物実測図② (1/4, 1/1)	211
第6-11 回	09SK005 実測図 (1/20)	160	第7-42 回	10SD212 出土遺物実測図 (1/4)	212
第6-12 回	09SK006 実測図 (1/40)	160	第7-43 回	10SK002 実測図 (1/40)	212
第6-13 回	09SK003 出土遺物 (1/3)	161	第7-44 回	10SK002 出土遺物実測図 (1/3)	213
第6-14 回	09SK006 出土遺物 (1/3)	162	第7-45 回	10SK006 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	213
第6-15 回	09SE007 実測図 (1/40)	163	第7-46 回	10SK006・10SD007 実測図 (1/40)	214
第6-16 回	09SK007 出土遺物 (1/3)	163	第7-47 回	10SK010a・10SK010b 実測図 (1/40)	214
第6-17 回	09SK010 実測図 (1/20)	164	第7-48 回	10SK010a・10SK010b 出土遺物実測図 (1/4, 1/3)	215
第6-18 回	09SK010 出土遺物 (1/3)	164	第7-49 回	10SK014 出土遺物実測図 (1/3, 1/4, 1/1)	216
第6-19 回	09SK013 実測図 (1/40)	165	第7-50 回	10SK050 出土遺物実測図 (1/3)	216
第6-20 回	09SK013 出土遺物 (1/3)	165	第7-51 回	10SK051 出土遺物実測図 (1/3)	216
第6-21 回	柱穴・包含層出土遺物 (1/3)	166	第7-52 回	10SK027 実測図 (1/40)	217
第7-1 回	田万寿寺跡第10次調査の位置 (1/15,000)	167	第7-53 回	10SK027 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	218
第7-2 回	田万寿寺跡第10次調査全体図 (1/1,000)	168	第7-54 回	10SK029 実測図 (1/40)	219
第7-3 回	田万寿寺跡第10次調査遺構配置図① (1/300)	169	第7-55 回	10SK029 出土遺物実測図 (1/3)	219
第7-4 回	田万寿寺跡第10次調査遺構配置図② (1/300)	170	第7-56 回	10SK030 実測図 (1/40)	220
第7-5 回	田万寿寺跡第10次調査遺構配置図③ (1/300)	171	第7-57 回	10SK030 出土遺物実測図 (1/3)	221
第7-6 回	田万寿寺跡第10次調査遺構配置図④ (1/300)	172	第7-58 回	10SK031 実測図 (1/60)	222
第7-7 回	田万寿寺跡第10次調査土層図① (1/100)	177	第7-59 回	10SK031 出土遺物実測図① (1/3)	223
第7-8 回	田万寿寺跡第10次調査土層図② (1/100)	178	第7-60 回	10SK031 出土遺物実測図② (1/3)	224
第7-9 回	田万寿寺跡第10次調査土層図③ (1/100)	179	第7-61 回	10SK031 出土遺物実測図③ (1/3)	225
第7-10 回	10SD015・10SD055・10SD060・10SD090・10SD100・ 10SD140・10SD298 実測図 (1/300)	180	第7-62 回	10SK031 出土遺物実測図④ (1/3)	226
第7-11 回	10SD015・10SD140 土層図 (1/60)	181	第7-63 回	10SK034 出土遺物実測図③ (1/3)	227
第7-12 回	10SD015 出土遺物実測図① (1/3)	182	第7-64 回	10SK034 実測図 (1/50)	227
第7-13 回	10SD015 出土遺物実測図② (1/3, 1/4, 1/1)	183	第7-65 回	10SK034 出土遺物実測図① (1/3)	228
第7-14 回	10SD090・10SD100 出土遺物 (1/3, 1/1, 1/4)	184	第7-66 回	10SK034 出土遺物実測図② (1/3)	229
第7-15 回	10SD140 出土遺物実測図① (1/3, 1/4)	186	第7-67 回	10SK034 出土遺物実測図③ (1/3)	230
第7-16 回	10SD140 出土遺物実測図② (1/4)	187	第7-68 回	10SK036 実測図 (1/30)	230
第7-17 回	10SX210 出土遺物 (1/3)	188	第7-69 回	10SK036 出土遺物実測図 (1/3)	231
第7-18 回	10SD060 実測図 (1/40)	189	第7-70 回	10SK037 実測図 (1/30)	232
第7-19 回	10SD060 出土遺物実測図① (1/3)	190	第7-71 回	10SK037 出土遺物実測図 (1/3)	233
第7-20 回	10SD060 出土遺物実測図② (1/3)	191	第7-72 回	10SK049・10SK038・10SK048 実測図 (1/40)	234
第7-21 回	10SD060 出土遺物実測図③ (1/3)	192	第7-73 回	10SK038 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	235
第7-22 回	10SD060 出土遺物実測図④ (1/3)	193	第7-74 回	10SK049 出土遺物実測図① (1/3)	236
第7-23 回	10SD298 出土遺物実測図① (1/3)	194	第7-75 回	10SK049 出土遺物実測図② (1/1)	236
第7-24 回	10SD298 出土遺物実測図② (1/3)	195	第7-76 回	10SK048 出土遺物実測図 (1/3)	236
第7-25 回	10SD055 出土遺物実測図① (1/3, 1/4)	196	第7-77 回	10SK050 実測図 (1/50)	238
第7-26 回	10SD055 出土遺物実測図② (1/4, 1/15)	197	第7-78 回	10SK050 出土遺物実測図 (1/3)	238
第7-27 回	10SD020・10SD025・10SD185・10SD360・10SD457 実測図 (1/300)	198	第7-79 回	10SK051・10SK052 実測図 (1/50)	239
第7-28 回	10SD360 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	199	第7-80 回	10SK051 出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	239
			第7-81 回	10SK052 出土遺物実測図 (1/3)	239

第 7-82 区	10SK061 实测区 (1/40)	240	第 7-136 区	10SK160 出土文物实测区① (1/4)	279
第 7-83 区	10SK062 实测区 (1/40)	240	第 7-137 区	10SK160 出土文物实测区② (1/4)	280
第 7-84 区	10SK061 出土文物实测区 (1/3)	240	第 7-138 区	10SK160 出土文物实测区③ (1/4)	281
第 7-85 区	10SK062 出土文物实测区 (1/3、1/4)	241	第 7-139 区	10SK160 出土文物实测区④ (1/4)	282
第 7-86 区	10SK068 实测区 (1/40)	242	第 7-140 区	10SK160 出土文物实测区⑤ (1/4)	283
第 7-87 区	10SK068 出土文物实测区 (1/3、1/4)	242	第 7-141 区	10SK160 出土文物实测区⑥ (1/4)	284
第 7-88 区	10SK070 实测区 (1/40)	243	第 7-142 区	10SK160 出土文物实测区⑦ (1/4、1/3、1/1)	285
第 7-89 区	10SK070 出土文物实测区 (1/4)	243	第 7-143 区	10SK165 实测区 (1/40)	286
第 7-90 区	10SK072 实测区 (1/30)	243	第 7-144 区	10SK165 出土文物实测区 (1/3、1/4)	286
第 7-91 区	10SK072 出土文物实测区 (1/1)	244	第 7-145 区	10SK166 实测区 (1/50)	287
第 7-92 区	10SK078 出土文物实测区 (1/3)	244	第 7-146 区	10SK166 出土文物实测区 (1/3、1/4)	288
第 7-93 区	10SK081 实测区 (1/30)	246	第 7-147 区	10SK169 出土文物实测区 (1/3、1/4)	289
第 7-94 区	10SK081 出土文物实测区	246	第 7-148 区	10SK170 出土文物实测区① (1/3、1/4)	290
第 7-95 区	10SK085 实测区 (1/30)	246	第 7-149 区	10SK170 出土文物实测区② (1/4)	291
第 7-96 区	10SK085 出土文物实测区① (1/3)	246	第 7-150 区	10SK172 出土文物实测区 (1/3、1/1)	292
第 7-97 区	10SK085 出土文物实测区② (1/4)	247	第 7-151 区	10SK174 实测区 (1/40)	292
第 7-98 区	10SK091 实测区 (1/40)	248	第 7-152 区	10SK174 出土文物实测区 (1/3)	293
第 7-99 区	10SK091 出土文物实测区 (1/4)	248	第 7-153 区	10SK176、10SK177a、10SK177b 实测区 (1/60)	294
第 7-100 区	10SK093 实测区 (1/40)	248	第 7-154 区	10SK176 出土文物实测区 (1/3、1/4)	295
第 7-101 区	10SK093 出土文物实测区 (1/3)	248	第 7-155 区	10SK177 出土文物实测区 (1/3、1/4)	296
第 7-102 区	10SK095 出土文物实测区① (1/3、1/4)	249	第 7-156 区	10SK190 出土文物实测区① (1/3)	297
第 7-103 区	10SK095 出土文物实测区② (1/4)	250	第 7-157 区	10SK190 出土文物实测区② (1/4)	297
第 7-104 区	10SK121 实测区 (1/30)	251	第 7-158 区	10SK195 实测区 (1/40)	298
第 7-105 区	10SK121 出土文物实测区 (1/3)	252	第 7-159 区	10SK195 出土文物实测区 (1/3、1/4)	298
第 7-106 区	10SK130 实测区 (1/40)	253	第 7-160 区	10SK196 实测区 (1/40)	298
第 7-107 区	10SK130 出土文物实测区 (1/1)	253	第 7-161 区	10SK196 出土文物实测区 (1/3、1/4)	299
第 7-108 区	10SK145 实测区 (1/40)	253	第 7-162 区	10SK201 出土文物实测区 (1/3)	299
第 7-109 区	10SK145 出土文物实测区 (1/3)	253	第 7-163 区	10SK204 出土文物实测区 (1/3)	299
第 7-110 区	10SK150 实测区 (1/40)	254	第 7-164 区	10SK205 出土文物实测区 (1/40)	300
第 7-111 区	10SK150 出土文物实测区① (1/3)	255	第 7-165 区	10SK205 出土文物实测区 (1/3、1/1)	300
第 7-112 区	10SK150 出土文物实测区② (1/3)	256	第 7-166 区	10SK206 实测区 (1/40)	301
第 7-113 区	10SK150 出土文物实测区③ (1/3)	257	第 7-167 区	10SK207 出土文物实测区 (1/4、1/3)	301
第 7-114 区	10SK150 出土文物实测区④ (1/3、1/4)	258	第 7-168 区	10SK207 实测区 (1/40)	302
第 7-115 区	10SK150 出土文物实测区⑤ (1/4)	259	第 7-169 区	10SK207 出土文物实测区 (1/3)	302
第 7-116 区	10SK150 出土文物实测区⑥ (1/4)	260	第 7-170 区	10SK213 实测区 (1/40)	303
第 7-117 区	10SK150 出土文物实测区⑦ (1/4)	261	第 7-171 区	10SK213 出土文物实测区① (1/3)	304
第 7-118 区	10SK150 出土文物实测区⑧ (1/4)	262	第 7-172 区	10SK213 出土文物实测区② (1/4)	305
第 7-119 区	10SK150 出土文物实测区⑨ (1/4)	263	第 7-173 区	10SK215 实测区 (1/40)	306
第 7-120 区	10SK152 实测区 (1/40)	264	第 7-174 区	10SK215 出土文物实测区 (1/3、1/4)	306
第 7-121 区	10SK152 出土文物实测区 (1/3)	264	第 7-175 区	10SK216 出土文物实测区① (1/4)	307
第 7-122 区	10SK156 出土文物实测区 (1/4)	264	第 7-176 区	10SK216 出土文物实测区② (1/4)	308
第 7-123 区	10SK160 实测区 (1/50)	265	第 7-177 区	10SK216 出土文物实测区③ (1/4)	309
第 7-124 区	10SK160 出土文物实测区① (1/3)	267	第 7-178 区	10SK217 出土文物实测区 (1/1)	309
第 7-125 区	10SK160 出土文物实测区② (1/4)	268	第 7-179 区	10SK222 实测区 (1/30)	310
第 7-126 区	10SK160 出土文物实测区③ (1/4)	269	第 7-180 区	10SK222 出土文物实测区 (1/1)	310
第 7-127 区	10SK160 出土文物实测区④ (1/4)	270	第 7-181 区	10SK224 出土文物实测区 (1/4)	311
第 7-128 区	10SK160 出土文物实测区⑤ (1/4)	271	第 7-182 区	10SK226 出土文物实测区 (1/4)	311
第 7-129 区	10SK160 出土文物实测区⑥ (1/4)	272	第 7-183 区	10SK232 实测区 (1/40)	312
第 7-130 区	10SK160 出土文物实测区⑦ (1/4)	273	第 7-184 区	10SK232 出土文物实测区③ (1/3、1/4)	312
第 7-131 区	10SK160 出土文物实测区⑧ (1/4)	274	第 7-185 区	10SK236 出土文物实测区 (1/3)	313
第 7-132 区	10SK160 出土文物实测区⑨ (1/4)	275	第 7-186 区	10SK239 实测区 (1/40)	313
第 7-133 区	10SK160 出土文物实测区⑩ (1/4)	276	第 7-187 区	10SK239 出土文物实测区 (1/3)	314
第 7-134 区	10SK160 出土文物实测区⑪ (1/4)	277	第 7-188 区	10SK253 出土文物实测区 (1/3、1/4)	313
第 7-135 区	10SK160 出土文物实测区⑫ (1/4)	278	第 7-189 区	10SK254 出土文物实测区 (1/3、1/4)	315

第7-190回	10-SK255a・10-SK255b 実測図 (1/40) ……………	316
第7-191回	10-SK255a 出土遺物実測図 (1/3) ……………	316
第7-192回	10-SK255b 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	317
第7-193回	10-SK260 実測図 (1/50) ……………	319
第7-194回	10-SK360 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	319
第7-195回	10-SK262 実測図 (1/40) ……………	320
第7-196回	10-SK362 出土遺物実測図 (1/4) ……………	320
第7-197回	10-SK363 実測図 (1/40) ……………	321
第7-198回	10-SK363 出土遺物実測図① (1/3, 1/4) ……………	322
第7-199回	10-SK363 出土遺物実測図② (1/4) ……………	323
第7-200回	10-SK365 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	323
第7-201回	10-SK268 出土遺物実測図 (1/3) ……………	323
第7-202回	10-SK274 実測図 (1/40) ……………	324
第7-203回	10-SK274 出土遺物実測図 (1/3) ……………	324
第7-204回	10-SK276 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	325
第7-205回	10-SK279 出土遺物実測図 (1/1) ……………	325
第7-206回	10-SK281 実測図 (1/40) ……………	326
第7-207回	10-SK281 出土遺物実測図① (1/3) ……………	327
第7-208回	10-SK281 出土遺物実測図② (1/3) ……………	328
第7-209回	10-SK284 実測図 (1/40) ……………	329
第7-210回	10-SK284 出土遺物実測図 (1/3) ……………	329
第7-211回	10-SK289 実測図 (1/40) ……………	330
第7-212回	10-SK289 出土遺物実測図 (1/3) ……………	330
第7-213回	10-SK307 出土遺物実測図 (1/3) ……………	331
第7-214回	10-SK308 出土遺物実測図 (1/3) ……………	331
第7-215回	10-SK308 出土遺物実測図 (1/3) ……………	332
第7-216回	10-SK318 出土遺物実測図 (1/3, 1/6) ……………	333
第7-217回	10-SK319 実測図 (1/40) ……………	334
第7-218回	10-SK319 出土遺物実測図 (1/3) ……………	334
第7-219回	10-SK323 出土遺物実測図 (1/40) ……………	334
第7-220回	10-SK323 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	335
第7-221回	10-SK333 実測図 (1/40) ……………	336
第7-222回	10-SK333 出土遺物実測図 (1/3, 1/1) ……………	336
第7-223回	10-SK339 出土遺物実測図 (1/3) ……………	337
第7-224回	10-SK345 実測図 (1/20) ……………	337
第7-225回	10-SK345 出土遺物実測図 (1/3) ……………	338
第7-226回	10-SK348 出土遺物実測図 (1/3) ……………	338
第7-227回	10-SK363 出土遺物実測図 (1/3) ……………	338
第7-228回	10-SK405 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	339
第7-229回	10-SE225 実測図 (1/60) ……………	340
第7-230回	10-SE225 升筒部分実測図 (1/40) ……………	341
第7-231回	10-SE225 出土遺物実測図① (1/3, 1/1) ……………	342
第7-232回	10-SE225 出土遺物実測図② (1/4, 1/3, 1/6) ……………	343
第7-233回	10-SE225 出土遺物実測図③ (1/6) ……………	344
第7-234回	10-SK350・10-SE395・10-SE454 実測図 (1/60) ……	345
第7-235回	10-SE350 升筒部分実測図 (1/40) ……………	346
第7-236回	10-SE350 出土遺物実測図① (1/3, 1/4, 1/6) ……………	347
第7-237回	10-SE350 出土遺物実測図② (1/6, 1/1) ……………	348
第7-238回	10-SE395 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	349
第7-239回	10-SE454 出土遺物実測図 (1/3) ……………	349
第7-240回	10-SE280・10-SE325・10-SE335・10-SE335・10-SE340・ 10-SE410 実測図 (1/80) ……………	350
第7-241回	10-SE280・10-SE325・10-SE335 実測図 (1/60) ……	351
第7-242回	10-SE280 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	352

第7-243回	10-SE325 出土遺物実測図① (1/3, 1/4) ……………	353
第7-244回	10-SE325 出土遺物実測図② (1/4, 1/3) ……………	354
第7-245回	10-SE335 出土遺物実測図 (1/3) ……………	355
第7-246回	10-SE340・10-SE410 実測図 (1/60) ……………	355
第7-247回	10-SE340 出土遺物実測図 (1/3) ……………	356
第7-248回	10-SE410 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	356
第7-249回	10-SE394 実測図 (1/60) ……………	357
第7-250回	10-SE394 出土遺物実測図 (1/3) ……………	357
第7-251回	10-SE459 実測図 (1/60, 1/40) ……………	358
第7-252回	10-SE459 出土遺物実測図 (1/3) ……………	359
第7-253回	10-SE233 実測図 (1/60) ……………	360
第7-254回	10-SE233 出土遺物実測図 (1/3) ……………	360
第7-255回	10-SE400 実測図 (1/40) ……………	361
第7-256回	10-SE400 出土遺物実測図 (1/3) ……………	361
第7-257回	10-SE250 実測図 (1/80) ……………	362
第7-258回	10-SE250 出土遺物実測図 (1/3) ……………	362
第7-259回	10-SE271 実測図 (1/50) ……………	363
第7-260回	10-SE271 出土遺物実測図① (礎石、1/15) ……………	363
第7-261回	10-SE271 出土遺物実測図② (1/3, 1/4) ……………	364
第7-262回	10-SE271 出土遺物実測図③ (1/4, 1/6) ……………	365
第7-263回	10-SE278 実測図 (1/60) ……………	366
第7-264回	10-SE278 出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	367
第7-265回	10-SE440 出土遺物実測図 (1/3, 1/1) ……………	368
第7-266回	10-SE440 出土遺物実測図 (1/3, 1/1) ……………	368
第7-267回	10-ST155 実測図 (1/30) ……………	369
第7-268回	10-ST155 出土遺物実測図 (1/2, 1/3) ……………	369
第7-269回	10-SP147・10-SP148・10-SP188 実測図 (1/40) ……………	371
第7-270回	10-SP188 出土遺物実測図 (1/60) ……………	371
第7-271回	10-SP285・10-SP295 実測図 (1/60) ……………	372
第7-272回	10-SP098 (14号) 実測図 (1/60) ……………	372
第7-273回	柱穴列実測図 (1/60) ……………	372
第7-274回	10-SP389 実測図 (1/3) ……………	372
第7-275回	柱穴出土遺物実測図 (1/3, 1/4) ……………	374
第7-276回	10-SX500 実測図 (1/30, 1/15) ……………	376
第7-277回	包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3) ……………	377
第7-278回	包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3) ……………	378
第7-279回	包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3) ……………	379
第7-280回	包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3) ……………	380
第7-281回	包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/3) ……………	381
第7-282回	包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/1) ……………	382
第7-283回	包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1/4) ……………	383
第7-284回	包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/4) ……………	384
第7-285回	包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/4) ……………	385
第9-1回	田万寿寺跡全体図 (1/2,000) ……………	393
第9-2回	8世紀後半～10世紀前半の遺構 (1/600) ……………	397
第9-3回	12～13世紀の遺構 (1/600) ……………	399
第9-4回	1・Ⅱ期 (14世紀前半～後半) の遺構 (1/600) ……………	401
第9-5回	Ⅲ・Ⅳ期 (14世紀末～15世紀) の遺構 (1/600) ……………	403
第9-6回	V・Ⅵ期 (16世紀前半～後半) の遺構 (1/600) ……………	405
第9-7回	順期 (16世紀末) -現代の遺構 (1/600) ……………	407

第5章 旧万寿寺跡第8次調査

第1節 調査の概要

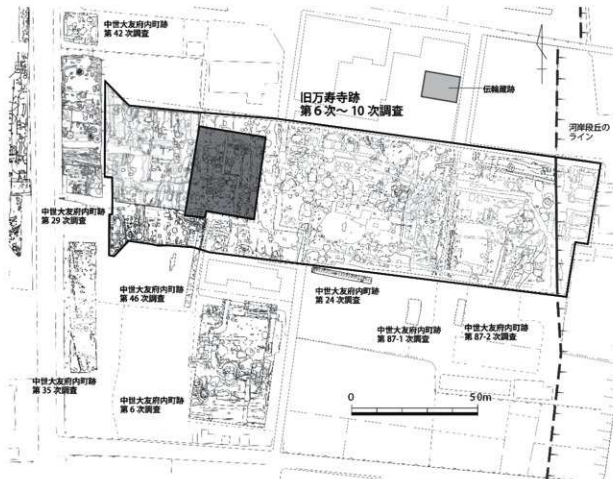
調査期間
平成26年
5月19日～
平成27年
2月9日

調査面積
1,039.6㎡

本章で報告する旧万寿寺跡第8次調査は、都市計画道路路元の原佐野線（元町工区）建設に伴い大分県土木建築部大分土木事務所からの委託を受けて実施したもので、平成26年（2014年）5月19日から平成27年（2015年）2月9日の約9ヶ月間、発掘調査を実施した。発掘調査区は南北約34.0m、東西27.3mの略長方形状を呈し、調査面積は1,039.6㎡（第5-1図）となる。

本調査区は大分県大分市大字大分に所在し、東側の隣接部に平成23年度に発掘調査を行った旧万寿寺跡第6次調査区、南東側の隣接部に平成25年度に発掘調査を行った旧万寿寺跡第7次調査区が位置している。また、平成26年度には第8次調査と併行して、第8次調査区の西約100mに位置している第9次調査区の発掘調査を実施するとともに、平成27年度に本調査を行うことになる第10次調査区の一部についても確認調査を実施した。

後述するように、平成26年5月の表土剥ぎ終了直後、現地表下約30cmのレベルで大型の柱穴状遺構を多数検出した。調査当初、これらの柱穴状遺構が中世の万寿寺に関連する超大型の掘立柱建物遺構である可能性が想定された。そのため、柱穴状遺構の遺構検出が完了した6月19日に空中写真撮影を実施した。ところがその後、柱穴状遺構の掘り下げを開始したところ、柱穴内から19世紀以降の陶器片やビニール紐などが出土することが判明し、これらが近現代に降る新しい遺構群であることが判明したのである（第5-2図）。



第5-1図 旧万寿寺跡第8次調査の位置 (1/15,000)

これらの柱穴状遺構の掘り下げ終了後、調査区全体を手掘りによって掘削する作業に着手し、現地表下約60～80cmのレベルで、溝や土坑、井戸、掘立柱建物跡などが広範囲に展開する、確実な中世の遺構面を確認した。これらの下層の遺構群（第5-3図）については、遺構検出の後、掘り下げや平面図・土層図の作成や写真撮影など、通常の発掘調査における記録作業を行った。しかしながら、これらの遺構の調査についても、遺構の切り合いが著しい地点があることに加え、遺構埋土と周辺土壌の判別が難しい地点が多く存在したため、遺構検出を適切に行い得なかったり、土層観察用ベルトを適切な場所に設けられなかった場合があるなど、調査方法やその進行手順について反省点を多く残す結果となってしまった。とは言うものの、本調査区では、埋土中に礎石が廃棄された16世紀後半の溝や万寿寺創建時期直後頃に掘削された14世紀前半の溝などを確認することができたほか、15世紀代の井戸や廃棄土坑からは「蔀山」の刻書や「蔀山観音殿」の墨書のある瓦質土器が出土したことなど、中世段階における万寿寺の様相を明らかにする上で貴重な資料を得ることができた。さらに、万寿寺創建時期より古い12世紀後半に比定される土坑を確認したほか、この遺構から瓦器坑や土師質土器などの良好な一括資料を得ることもできた。

本調査区における基本的な土層の堆積状況（第5-4図）は、下記の通りである。

まず、現地表下約30～60cmには、調査直前まで使用されていた駐車場の造成土が堆積する。造成土の直下には旧耕作土である黒褐色土が数cmほど残存していたが、駐車場の工事によって削平されている地点もあった。

この黒褐色土の直下が、大型の柱穴状遺構が展開する上層の遺構群の遺構面となる。上遺構面のレベルは標高約6.4mで、近現代の大型柱穴状遺構（植栽痕？）や16世紀末頃の土坑や焼土を確認した。16世紀末に遡る遺構の数はごく僅かで、焼土の広がりについても、土坑の検出面や埋土などのごく一部で狭い範囲に留まっていた。

旧耕作土である黒褐色土の下位には、中世の遺物を多量に含む遺物包含層が堆積しており、調査区壁面などの土層で観察すると、その厚みは40～60cmを測る。この包含層の掘り下げ中に、土師質土器坏2個体を合わせ口にした埋納遺構や石列、炭化物を多量に含む層の広がりなどを認めたが、遺構面として認識することができなかった。また、後述する16世紀後半に比定される溝についても、この包含層の掘り下げ中に遺構のプランの一部を確認した。

遺物包含層を撤去した後、溝や土坑、柱穴などの遺構プランが明確になる遺構面が認められ、これらを下層遺構群として精査を行った。下層の遺構が検出可能な遺構面のレベルは、約6.0～5.8mである。

本調査区で確認された遺構は、下記の通りである。まず、上層で確認された大型柱穴状遺構は、近現代の所産ではあるが、48基を確認した。下層で確認された遺構群については12世紀後半から16世紀末に比定され、溝が6条、井戸が2基、土坑・柱穴が多数、掘立建物跡1棟、その他の遺構5基などがある。

上記の遺構の掘り下げが完了に近づいた平成26年（2014年）12月2日と19日には、遺跡全体の空中写真撮影を実施した。その後、遺構の一部に残っていた土層観察用ベルトの撤去を行った後、中世以前の遺構・遺物が存在するかどうかを検討するため、部分的な掘り下げを実施した。そして、平成27年（2015年）2月9日には埋め戻しを含めた現地での作業をすべて終了することができた。なお、本調査区の遺構については、大分県土木建築部との協議により、道路建設工事に伴い一部の地点が破壊されたものの、その大半が道路下に保全される運びとなった。

上層の
遺構面
標高
約6.4 m

下層の
遺構面
標高
約6.0～
5.8 m

第1表 旧万寿寺跡第8次調査主要遺構一覧表①

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
08-SX001	S001	柱穴状遺構	F61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX002	S002	柱穴状遺構	Q61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX003	S003	柱穴状遺構	Q61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX004	S004	柱穴状遺構	R61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX005	S005	柱穴状遺構	R61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX006	S006	柱穴状遺構	R61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX007	S007	柱穴状遺構	P61区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX009	S009	柱穴状遺構	Q62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX010	S010	柱穴状遺構	Q62～R62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX011	S011	柱穴状遺構	R62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX012	S012	柱穴状遺構	R62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX014	S014	柱穴状遺構	Q62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX015	S015	柱穴状遺構	Q62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX016	S016	柱穴状遺構	Q62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX017	S017	柱穴状遺構	R62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX018	S018	柱穴状遺構	R62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX019	S019	柱穴状遺構	P62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX020	S020	柱穴状遺構	P62区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX021	S021	柱穴状遺構	Q62～Q63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX022	S022	柱穴状遺構	Q63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX023	S023	柱穴状遺構	R63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX024	S024	柱穴状遺構	R63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX025	S025	柱穴状遺構	P63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX026	S026	柱穴状遺構	P63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX027	S027	柱穴状遺構	Q63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX028	S028	柱穴状遺構	Q63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX029	S029	柱穴状遺構	R63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX030	S030	柱穴状遺構	R63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX031	S031	柱穴状遺構	P63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX032	S032	柱穴状遺構	P63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX033	S033	柱穴状遺構	Q63区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX034	S034	柱穴状遺構	Q63～Q64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX035	S035	柱穴状遺構	R64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX036	S036	柱穴状遺構	R64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX037	S037	柱穴状遺構	P64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX038	S038	柱穴状遺構	P64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX039	S039	柱穴状遺構	Q64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX040	S040	柱穴状遺構	Q64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX041	S041	柱穴状遺構	R64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX042	S042	柱穴状遺構	R64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX043	S043	柱穴状遺構	P64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX044	S044	柱穴状遺構	P64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX045	S045	柱穴状遺構	Q64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX046	S046	柱穴状遺構	Q64区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX047	S047	柱穴状遺構	Q64～R65区	近・現代	補裁痕?	9
08-SX048	S048	柱穴状遺構	R64～R65区	近・現代	補裁痕?	9
08-SK051	S051	土坑	Q61区	V期(16世紀前半)		40
08-SK052	S052	土坑	Q61～Q62区	Ⅳ期(16世紀末)		41
08-SK053	S053	土坑	P61区	時期不明		42
08-SX055	S055	遺物の分布範囲	P62～Q62区	時期不明		137
08-SK058	S058	土坑	R62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		42

第5章 旧万寿寺跡第8次調査

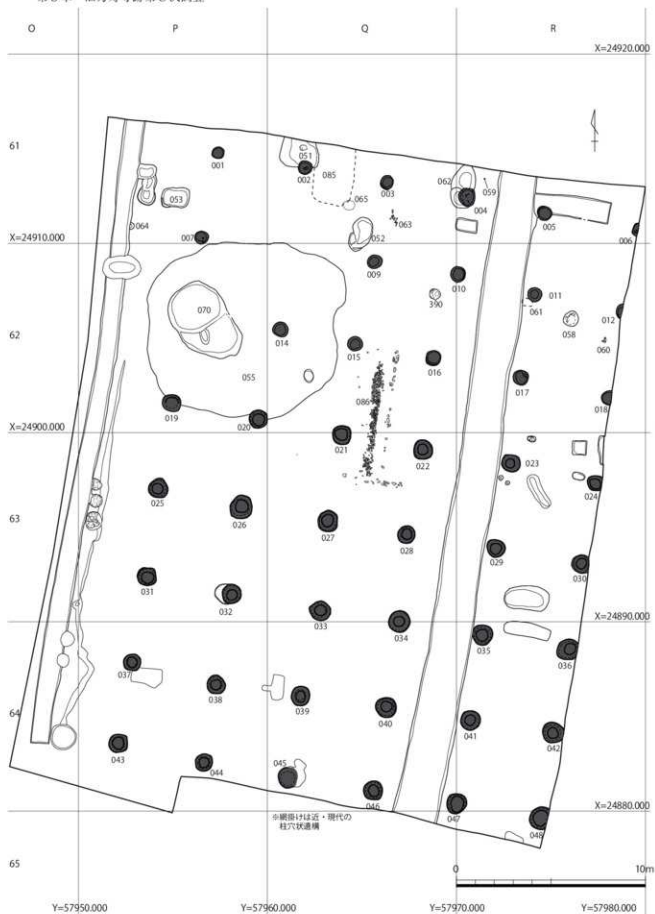
第2表 旧万寿寺跡第8次調査主要遺構一覧表②

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
08-SX059	S059	祭壇遺構	R62区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)	含む石の土脚型土器等を埋納	133
08-SK060	S060	土坑	R62区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		42
08-SK061	S061	土坑	R62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		43
08-SK062	S062	土坑	Q61～R61区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		45
08-SK063	S063	土坑	Q61区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		45
08-SF064	S064	柱穴	P61区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		119
08-SK065	S065	土坑	Q61区	時期不明		45
08-SX066	S066	不明遺構	Q61～R61区	Ⅵ期(16世紀後半)	巨石礎臺遺構	133
08-SD068	S068	溝	Q61～Q63区	Ⅵ期(16世紀後半)		13
08-SK070	S070	土坑(瓦甬め)	P62区	Ⅳ期(15世紀中頃～15世紀後半)		46
08-SX073	S073	土坑	R63区	時期不明		56
08-SK082	S082	土坑	R61～R62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		57
08-SK083	SK083	土坑	R62区	時期不明		58
08-SK084	SK084	土坑	R63区	時期不明		58
08-SK085	S085	-	Q61区	Ⅰ期(14世紀前半)		38
08-SX086	S086	石列	Q61～Q62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		135
08-SK087	S087	土坑	R64区	Ⅲ期(14世紀末～15世紀前半)		59
08-SK088	S088	土坑	P62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		59
08-SK090	S090	土坑	R63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		61
08-SK091	S091	土坑	R63区	Ⅱ期(14世紀後半)		62
08-SK092	S092	土坑	Q63～R63区	時期不明		92
08-SK094	S094	土坑	P62区	時期不明		63
08-SK095	S095	土坑	P62区	Ⅲ期(14世紀末～15世紀前半)		63
08-SD100	S100	溝	R62～R65区	Ⅱ期(14世紀後半)		27
08-SK103	S103	土坑	P64区	Ⅵ期(16世紀後半)		65
08-SK104	S104	土坑	P62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		65
08-SK106	S106	土坑	P63区	Ⅵ期(16世紀後半)		67
08-SK108	S108	土坑	R64区	時期不明		67
08-SK110	S110	土坑	P62区	Ⅳ期(15世紀中頃～15世紀後半)		68
08-SK111	S111	土坑	Q62区	時期不明		69
08-SK113	S113	土坑	R61区	時期不明		69
08-SK114	S114	土坑	P63区	Ⅴ期(16世紀前半)		71
08-SD117	S117	溝	Q62～Q63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)?		39
08-SD118	S118	溝	Q63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)?		40
08-SK129	S129	土坑	R63区	時期不明		71
08-SK133	S133	土坑	P63区	Ⅵ期(16世紀後半)		71
08-SK134 a	S134	土坑	Q62区	時期不明		71
08-ST134 b	S134	墓	Q62区	Ⅱ期(14世紀後半)		122
08-SK136	S136	土坑	R63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		73
08-SD139	S139	溝	Q63～Q65区	Ⅵ期(16世紀後半)		26
08-SK140	S140	土坑	P62区	時期不明		74
08-SK141	S141	土坑	P63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		74
08-SK148	S148	土坑	P63区	12世紀?		75
08-SE152	S152	井戸	P63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)?		126
08-SK153	S153	土坑	P63区	時期不明		75
08-SK155	S155	土坑	Q62～Q63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		76
08-SK156	S156	土坑	Q62区	時期不明		76
08-SK167	S167	土坑	P62～P63区	15世紀	「壽山観音殿」黒書土器出土	77
08-SD168	S168	溝	Q61～Q62区	14世紀後葉		33
08-SK169	S169	土坑	P62～P63区	Ⅳ期(15世紀中頃～後半)		80
08-SK178	S178	土坑	Q63区	15世紀?		80

第3表 旧万寿寺跡第8次調査主要遺構一覧表③

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
08-SK185	S185	土坑	Q62～R62区	15世紀?		81
08-SK186	S186	土坑	P62～Q62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		81
08-SK191	S191	土坑	Q62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		85
08-SK192	S192	土坑	Q62区	Ⅳ期(15世紀後半)以前		85
08-SK193a	S193	土坑	P63区	Ⅳ期(16世紀後半)		85
08-SK193b	S193	土坑	P63区	Ⅳ期(16世紀後半)		85
08-SK197	S197	土坑	P63～P64区	時期不明		96
08-SK198	S198	土坑	Q61～Q62区	Ⅳ期(16世紀後半)		97
08-SK199	S199	土坑	Q62～R62区	Ⅱ期(14世紀中葉～後半)		98
08-SK200	S200	土坑	P63～Q64区	時期不明		98
08-SK201	S201	土坑	Q63区	Ⅳ期(15世紀中頃～後半)		99
08-SK205	S205	土坑	Q62区	時期不明		101
08-SK207	S207	土坑	Q63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		101
08-SK208	S208	土坑	Q63区	時期不明		103
08-SP211	S211	柱穴	Q64区	Ⅳ期(15世紀中頃～後半)	柱穴内礎石、08-SB400を構成	120
08-SP212	S212	柱穴	Q64区	Ⅳ期(15世紀中頃～後半)	柱穴内礎石、08-SB400を構成	120
08-SP216	S216	柱穴	P63～P64区	時期不明		119
08-SP225	S225	柱穴	P63～P64区	時期不明		119
08-SK228	S228	土坑	P63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		103
08-SK230	S230	土坑	P62～Q62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		103
08-SK232	S232	土坑	P64区	V期(16世紀前半)		104
08-SK238	S238	土坑	P64区	時期不明		106
08-SK239	S239	土坑	Q62区	I～Ⅱ期(14世紀前半～後半)		106
08-SK241	S241	土坑	P62～P63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		108
08-SK243	S243	土坑	Q62区	時期不明		108
08-SP244	S244	柱穴	P63区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		119
08-SP245	S245	柱穴	P63区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		119
08-SE262	S262	井戸	P62～P63区		「露山」刻書土器出土	126
08-SK264	S264	土坑	R62区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		109
08-SK265	S265	土坑	P63区	時期不明		109
08-SK266	S266	土坑	P63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		110
08-SK267	S267	土坑	P63区	時期不明		110
08-SP268	S268	柱穴	Q64区	時期不明		120
08-SK269	S269	土坑	Q62区	時期不明		110
08-SK270	S270	土坑	Q63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		112
08-SK271	S271	土坑	Q63区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		112
08-SK273	S273	土坑	Q63区	時期不明		113
08-SK274	S274	土坑	Q63区	I～Ⅱ期(14世紀前半～後半)		113
08-SK276	S276	土坑	Q62～Q63区	時期不明		114
08-SK278	S278	土坑	P63区	15世紀以前		116
08-SK285	S285	土坑	P63区	時期不明		116
08-SK290	S290	土坑	Q62～R62区	時期不明		116
08-SP294	S294	柱穴	P64区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)	柱穴内礎石、08-SB400を構成	120
08-SK300	S300	土坑	O64区	12～13世紀		117
08-ST305	S305	墓	O64～P64区	Ⅱ期(14世紀中頃～後半)		124
08-SP321	S321	柱穴	P64区	時期不明		120
08-SP332	S332	柱穴	P64区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)	柱穴内礎石、08-SB400を構成	120
08-SP338	S338	柱穴	P64区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)	柱穴内礎石、08-SB400を構成	120
08-SP339	S339	柱穴	P64区	時期不明		119
08-SX355	S355	石列	R61～R63区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)		135
08-SX390	-	礎の埋置遺構	Q62区	時期不明	報告書作成時に遺構番号を設定	136
08-SB400	-	掘立柱建物跡	O64～P64区	Ⅲ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀後半)	報告書作成時に遺構番号を設定	120

第5章 旧万寿寺跡第8次調査



第5-2図 旧万寿寺跡第8次調査遺構配置図(上層 1/200)

X=24920.000



第5-3図 旧万寿寺跡第8次調査遺構配置図(下層 1/200)

第2節 遺構と遺物

1 上層で確認した遺構

柱穴状遺構 (第5-2図・第5-5図・第5-6図)

重機による表土剥ぎを実施した直後、現地表下約30cmのレベルで遺構検出を行った段階で確認した遺構群である。検出した遺構は、径約1.2～2.0mを測る円形プランの大型柱穴状遺構46基 (08-SX001～08-SX007、08-SX009～08-SX12、08-SX014～08-SX048) である。それぞれの遺構は4～5mごとにほぼ等間隔で並んでおり、第8次調査区全体に広がっていた (第5-2図)。検出直後の地表観察では、遺構のプランや埋土が安定しているような印象を受けた。そのため、念のために、これらの遺構が超大型の建物を構成する柱穴群である可能性を考慮⁽¹⁾し、検出面での写真撮影 (空撮を含む) や実測作業を行った。

ところが、埋土の掘削を開始してみると、これらの柱穴状遺構を堀立建物跡の柱穴跡と考えるには、多くの疑問点が生じてきた。まず、何よりも個々の遺構に明瞭な柱痕跡が認められないことがあり、さらには遺構埋土の状況や深さが一定しないこと (第5-5図・5-6図)、検出直後の印象とは異なり、大多数の埋土がバサバサして締まりがないことが特徴として掲げられた。また、埋土中から白色物質の固まりや炭・灰 (08-SX005)、小型の動物遺存体 (08-SX029、08-SX036、08-SX047) が出土するものもあり、掘り下げを進めるにつれて、これらの遺構が中世・近世以前に遡るものであるかどうかについても、疑問が生じるような様相を呈してきた。

ただ、埋土中から出土する遺物の大半が中世のものであり、このことが当該遺構の時期についての判断を鈍らせ、遅らせる結果となってしまった。しかしながら、これらの柱穴状遺構の一部から19世紀以降に比定される陶器土瓶の口縁部小片や劣化したビニール袋やビニール紐が出土するに至り、これらが近現代に下るものとの確証を得たのである。

以上のような状況から、これらの柱穴状遺構が新しいものと判断されたことで、当該遺構についてはこれ以上の検討を行うことを中断し、下層に展開する遺構群の調査に向けて調査を進めることとした。

これらの柱穴状遺構の性格については、埋土中に肥料 (?) と推定される白色物質や動物遺存体などが出土していることから、近現代以降に降る植栽痕の可能性が高いと考えている。

柱穴状遺構から出土した遺物 (第5-7図・第5-8図)

柱穴状遺構から出土した中世に遡る、もしくは遡る可能性がある遺物を図示した。なお、近世以降に下る陶器土瓶の口縁部破片やビニール袋については図示を行っていない。

1および12は08-SX021の出土遺物である。1は土師質土器小皿で、15世紀代の製品。12は土師質塔火鉢で、外面に菊花文の刻印を施す。08-SX021は08-SK276と切り合い関係にあるため、これらは本来当該遺構に帰属する遺物であろう。

2は08-SX009出土の土師質土器小皿で、14世紀代の製品。08-SX021は08-SK239と切り合い関係にあるため、本来当該遺構に帰属する遺物であろう。

3および10は08-SX027の出土遺物である。3は土師質土器杯の底部で、胎土が淡白色を呈し、器壁が薄く、周防地域からの搬入品と推定される。15世紀中葉から後半の製品。10は瓦質土器の

円形プランの大型柱穴状遺構

動物遺存体の出土

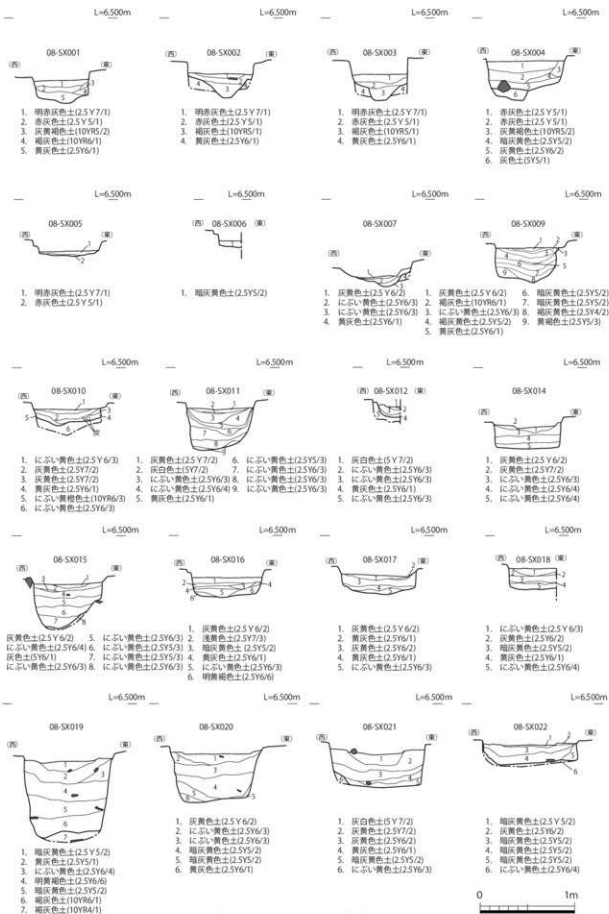
遺構は近現代以降

植栽痕

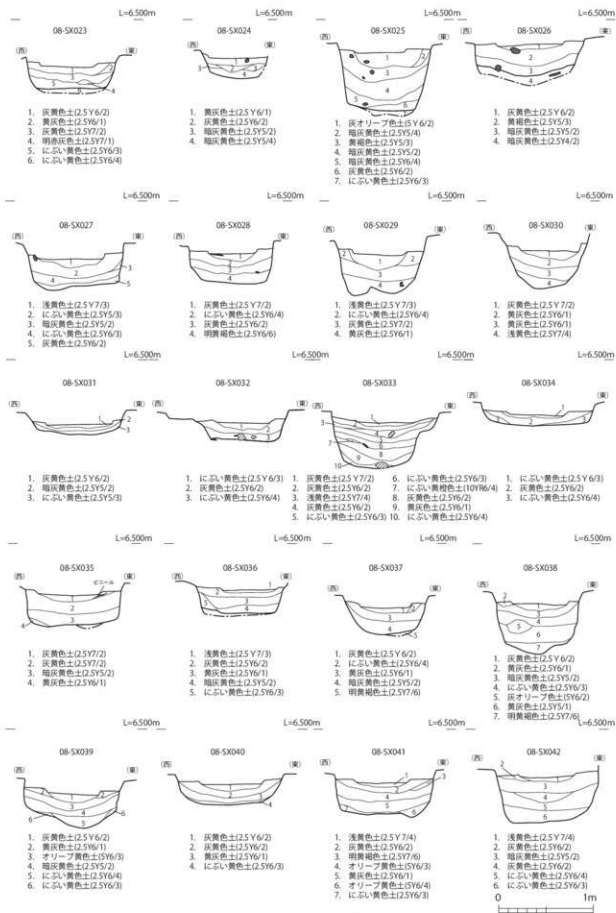
註(1)大分市教育委員会が平成18年(2006年)に実施した旧万寿寺跡第3次調査では、16世紀後半とされる大型の掘立建物跡の一部が検出されている。柱穴は東西方向に1間、南北方向に5間が確認され、柱の間隔が25～35mと広いことから、特異な建物であった可能性が指摘されている。

大友館研究会編「大友館と市内の研究」(東京堂出版 2017年)423頁。

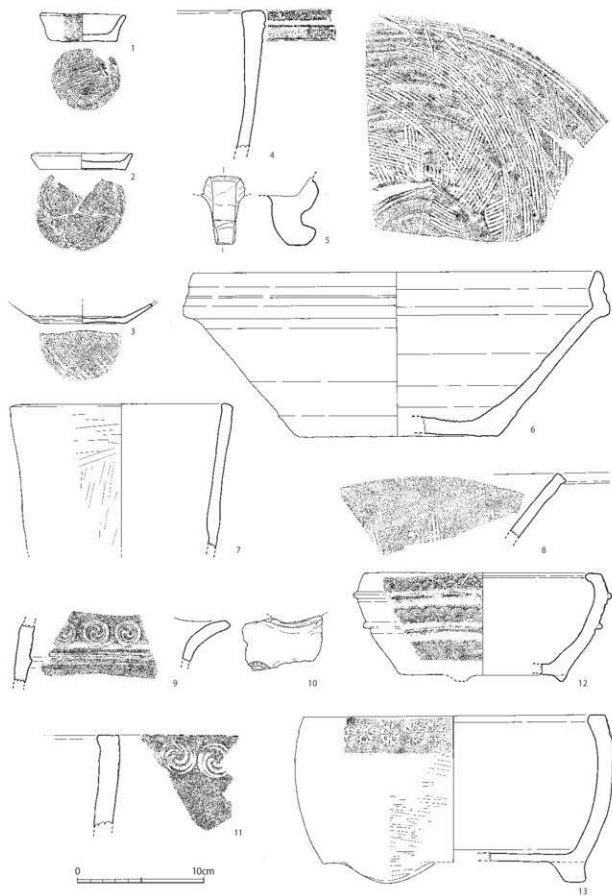
第5章 旧万寿寺跡第8次調査



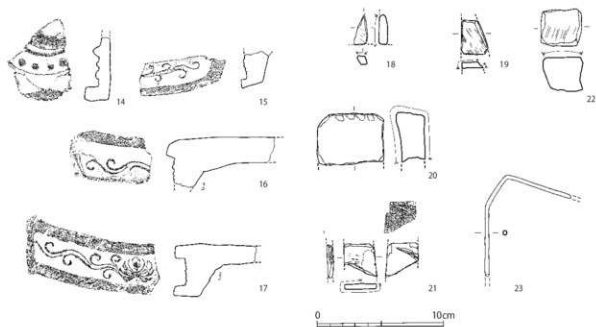
第5-5図 柱穴状遺構土層①(1/40)



第5-6図 柱穴状遺構土層②(1/40)



第5-7图 柱穴状遺構出土遺物実測図① (1/3)



第5-8図 柱穴状遺構出土遺物実測図②(1/3)

破片で、胴部外面に巴文の刻印の一部が押印されている。

4・6・16は08-SX033の出土遺物である。4は瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁外面に二連雷文の刻印を施す。6は備前焼播鉢で、内面には放射状播目と斜め播目が認められる。いずれも16世紀後半の製品。16は軒平瓦である。

5は08-SX027出土の瓦質土器片で、火鉢などの脚部であろう。

7・9・14・15は08-SX025の出土遺物である。7は瓦質土器片で、筒状の器形を呈する容器の口縁部である。近くにある08-SK167から出土した破片と接合する。類例の乏しい遺物であるが、SK167の年代から、15世紀後半に比定される。9も瓦質土器片で、外面に巴文の刻印と断面三角形の突帯を有する。巴文の刻印の形態は10のそれと類似する。14は軒平瓦、15は軒平瓦である。

8は08-SX019出土の瓦質土器播鉢で、内面に6条を1単位とする播目が認められる。14～15世紀代の製品。

11は08-SX020出土の瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁部の外面に巴文の刻印を施す。

13は08-SX004出土の瓦質土器火鉢で、口縁部外面に特徴的な花文の刻印を有する。切り合い関係にある08-SK062出土の破片と接合している。14～15世紀の製品。

17は08-SX029出土の軒平瓦の破片で、瓦当文様を作出する范は創建期軒平瓦の瓦范の左右を切り詰めたものが使用されている。

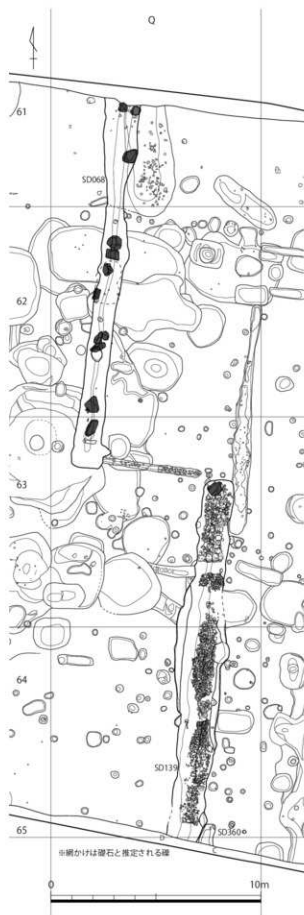
18～22は砥石で、いずれも砂岩が素材として使用されている。18は08-SX015、19は08-SX048、20は08-SX032、21は08-SX047、22は08-SX021からの出土遺物である。

23は08-SX044出土の銅線で、時期・用途ともに不明である。

2 溝

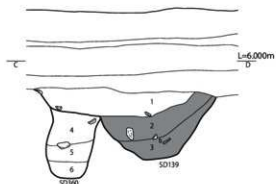
08-SD068 (第5-9図)

Q61～Q63区に位置する南北方向の溝で、北側は第10次調査区に伸びる。第8次調査では幅約1.4m、長さ約17.5m、深さ0.92mを検出し、Q63区で南側の終息部を確認した。調査区の各地点で多数の溝や土坑と切り合い関係を有するが、すべての遺構を切って構築されている。



1. 黄褐色シルト質土(2.5Y5/6)
2. オリーブ褐色シルト質土(2.5Y4/6)
3. オリーブ褐色シルト質土(2.5Y4/4)
4. 暗灰黄色粘性シルト質土(2.5Y5/2)

08-SD068土層図



1. 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3)
2. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
3. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y4/2)

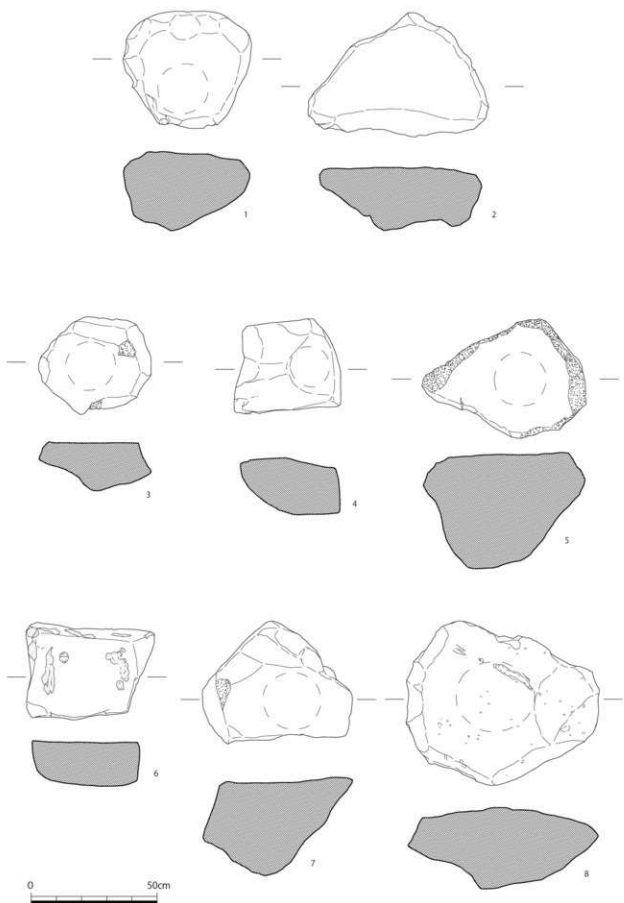
08-SD139土層図(調査区南壁)

4. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y4/2)
5. オリーブ褐色シルト質土(2.5Y4/4)
6. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y4/2)

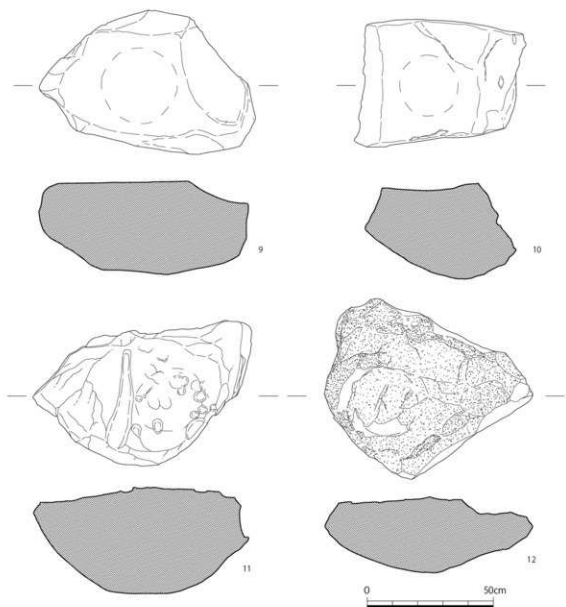
08-SD360土層図(調査区南壁)



第5-9図 08-SD068・08-SD139・08-SD360実測図 (1/80、1/50)



第5-10図 08-SD068礎石実測図① (1/15)



第5-11図 08-SD068礎石実測図② (1/15)

08-SD068の断面形は逆三角形状を呈する。埋土は土壌のみで形成される部位もあるが、土層断面図を作成した部位においては、下層では頭大から拳大の多量の礫が底面にぎっしり充填されたように出土し、上層には土壌が堆積している状況が観察された。溝の上層には「礎石」と推定される大型の礫が少なくとも12個出土した。大型の礫は安山岩製で、その大きさは幅45～90cm、長さ40～65cm、厚さ20～45cmを測る。これらの礫には必ず平坦面が形成されており、その部分を詳細に観察すると、径20cm強を測る円形の柱が据えられていた痕跡が観察できる。礫の中には被熱の痕跡が認められるものや赤変したものも存在する。礫には平坦面を上にしたものもあったが、そのほとんどが傾いた状態や平坦面がほぼ垂直となった状態で出土したものがあり、溝の近隣に存在した建物が撤去された際に、溝中に礎石が廃棄されたような様相を呈していた。溝の中からは多量の礫とともに、土器類や陶磁器片、瓦、石塔類、石製品、鉄器などが出土した。出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅡ期（16世紀後半）に比定される。

礎石の出土

礎石は被熱・赤変

08-SD068出土遺物（第5-12図・第5-13図）

瓦質土器
燈籠

第5-12図1～5は京都系土師器の皿である。いずれも口縁端部内外面にススが付着している。6は京都系土師器の器形を真似た土師質土器皿であり、底部外面に糸切り痕とナデが認められる。この資料の口縁端部内外面にもススが付着する。7は瓦質土器燈籠である。笠部破片（7a）と胴部から底部（7b）の破片があり、両者は接合していないが、同一個体と推定される。底部内面にはナデ調整が施されており、底部外面には3箇所板状の脚部が貼付されている。胴部には長方形のスリットが設けられており、スリットには間隔が狭い部分と広い部分が認められる。スリットの幅が広い部位から燈籠の内部に灯明皿を設置して、使用したと推定される。出土した直後には、底部内面に、灯明皿から吹きこぼれたスス（油煙）がべったりと付着していた。笠部と底部には円形の貫通孔が設けられており、この孔に紐などを通して、釣り燈籠として使用されていたことを示している。類例としては、中世大友府内町跡第29次調査SE065⁽²⁾、同第80次調査近世地層⁽³⁾出土資料がある。当該資料の周辺からは、ススの付着した京都系土師器皿が複数出土しており、これらが内部に設置された灯明皿であった可能性がある。

第5-13図8～18は瓦質土器である。8は鉢で、底部を欠損する。9は合子と思われる資料で、受け部のある口縁部と胴部上半部が残存する。10～18は火鉢または風炉である。10は口縁部、11・13は胴部、12は脚部付近の破片である。11・12の風炉または火鉢は、胴部下位に2条の突帯を有し、突帯間には菊花文の刻印を施している。13は胴部上位から中位の破片で、口縁部は欠損し、胴部中位に2条の突帯を有する。近畿地方からの搬入品である可能性がある。14は華南三彩で、盤の底部の破片の可能性ある。内面に緑釉が施されており、外面は露胎となる。

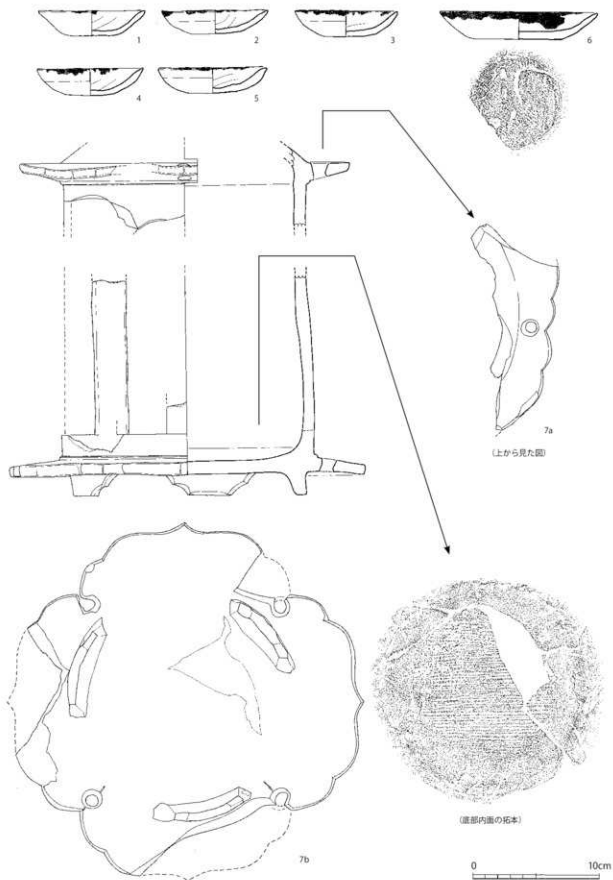
15は中国産の青磁瓶の頸部の破片である。外面に細かい沈線と把手がはずれた痕跡が残る。16は陶器片の再加工品で、中国産の褐釉陶器の胴部破片を円形に加工している。外面に褐釉が施されており、内面は露胎となる。17は備前焼掛入で、筒状の器形を呈し、胴部に貫通孔を有する。胴部内面には細かい口ロク目が残る。18は大型土錘の破片である。19は混入品で、弥生時代時代後期末から古墳時代前期初頭の壺の口縁部破片である。二次口縁の外面に撫搦波状文と円形刺突文が施されている。

第5-14・5-15図20～40は軒平瓦である。20～22は創建期のもので、瓦当文様は20・21が連珠文、22が蓮華唐草文となる。23・24も蓮華唐草文軒平瓦であるが、創建期に使用された瓦范の左右が切り詰められた文様が使用されている。25は菱形唐草文軒平瓦で、豊後府内名号小路町に所在した称名寺の創建期に多用された軒平瓦と同一文様である。26～31は蓮華唐草文軒平瓦で、創建期のもものと比較すると、瓦当文様が退化している。32～39も蓮華唐草文軒平瓦である。当該資料の瓦当文様は福岡県田戸屋小学校遺跡（金台寺跡）⁽⁴⁾と瓦当文様が酷似しており、同范である可能性もある。凹面に顕著な布目痕が残ることも、当該資料の大きな特徴である。また、中心飾りが磨滅するものや意図的に削られている個体（34～36）も存在する。41～44は花唐草文軒平瓦で、40・41や42・43および44のグループに分類される。詳細に観察すると中心飾りや唐草文に小異が認められ、複数の瓦范が存在したことがわかる。

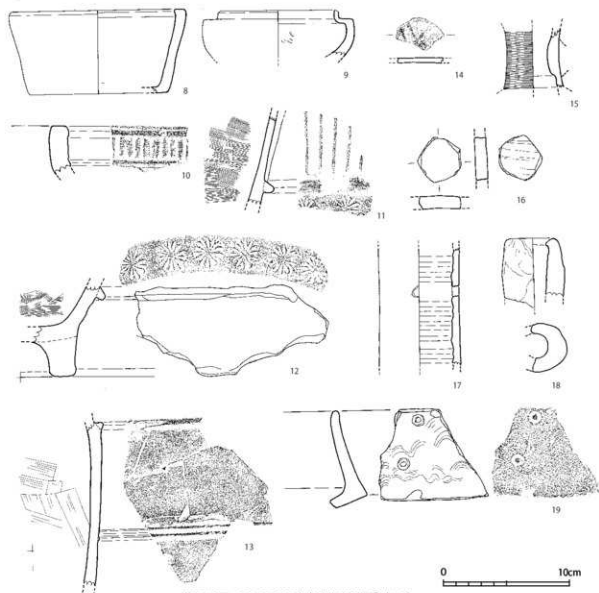
第5-16図45～52は巴文軒九瓦である。瓦当文様が観察できるものとしては、尾部が細長い左回転の巴文を持ち、周囲の珠文数が21を数えるもの（45～47）、瓦当径がひとまわり小さく、尾部がやや太めである左回転の巴文を持ち、周囲の珠文数が17を数えるもの（51）がある。また、85には九瓦部に釘穴を設けている。

梵字文
軒九瓦

第5-17図43は梵字文軒九瓦である。瓦当面には「四天王惣呪」を表す4文字の梵字が残存する。54・55は鬼瓦である。54は小破片で、顔部のうちでも鼻の部位が残存している。全体の約3分の2が残る55は厚みがないこと、下顎を表現しないこと、周縁に沈線による鋸歯状文が認められること



第5-12図 08-SD068出土遺物実測図① (1/3)



第5-13図 08-SD068出土遺物実測図②(1/3)

などから古相を呈する資料と思われる、16世紀の遺構からの出土ではあるが、製作年代は万寿寺創建時の14世紀代に遡る可能性がある。56は雁振瓦、第5-18図57～59は埴、第5-19図60は九瓦、61～63は平瓦である。60の玉縁部の端面、61・62の端面には図示したような押印がある。63の広端面付近の凹面には「×」状の押圧文が複数認められ、平瓦の二次調整台に文様が刻まれていたことがわかる。64は凝灰岩製の五輪塔水輪で、正面と思われる部位に「□亭禅門」の刻字があるほか、墨書による「應永廿□年(1413～1422)」の年号や3個の梵字が書かれている。65は「凹」字状に加工された凝灰岩製の石樋である。同図66は五輪塔の空風輪で、凝灰岩製。割付線と思われる刻線と梵字と思われる墨書がある。67は凝灰岩製の板碑の一部と思われる、表面には梵字が刻まれている。68は安山岩製の石臼である。69～71は鉄釘である。72は大型の鉄製品で、鋸であろうか。73は中国北宋銭の淳化元寶(初鑄造年990年)である。

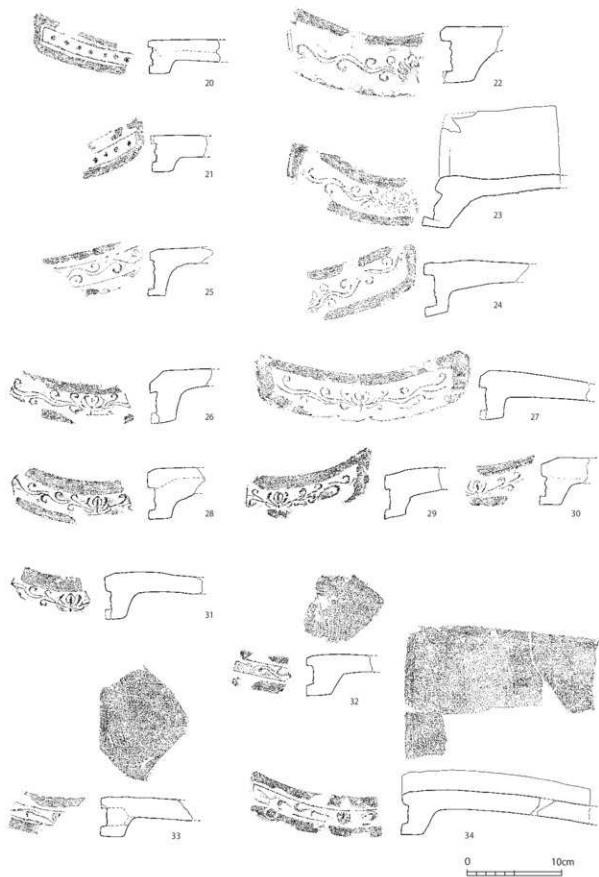
鬼瓦
(新建時に遡る?)

「應永廿□
年(1413～
1422)」
墨書跡
五輪塔水輪

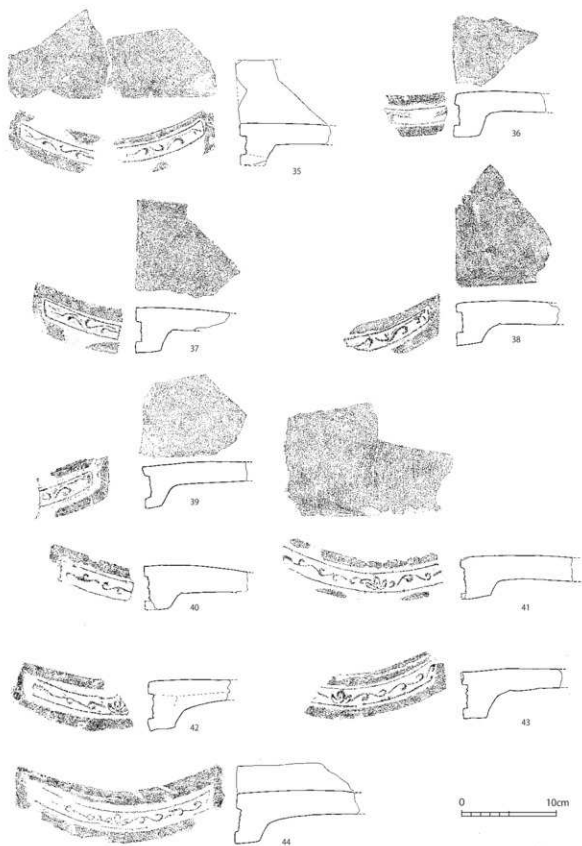
註(2)大分県教育庁埋蔵文化財『豊後府内12』(2009年、206頁第4-129図15)

(3)大分県教育庁埋蔵文化財『豊後府内17(第1分冊)』(2013年、290頁第302図565)

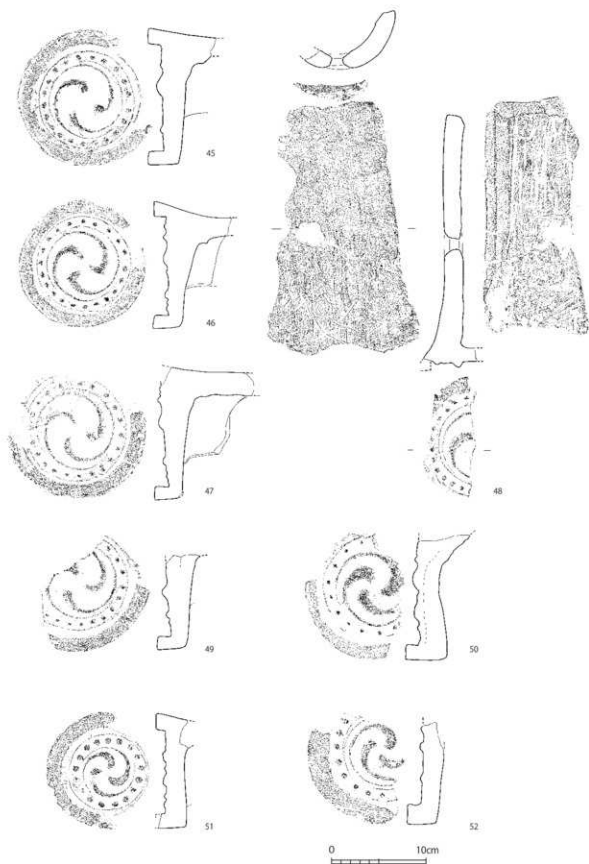
(4)芦屋町教育委員会『芦屋小学校跡遺跡』(芦屋町文化財調査報告書第8集、1996年)



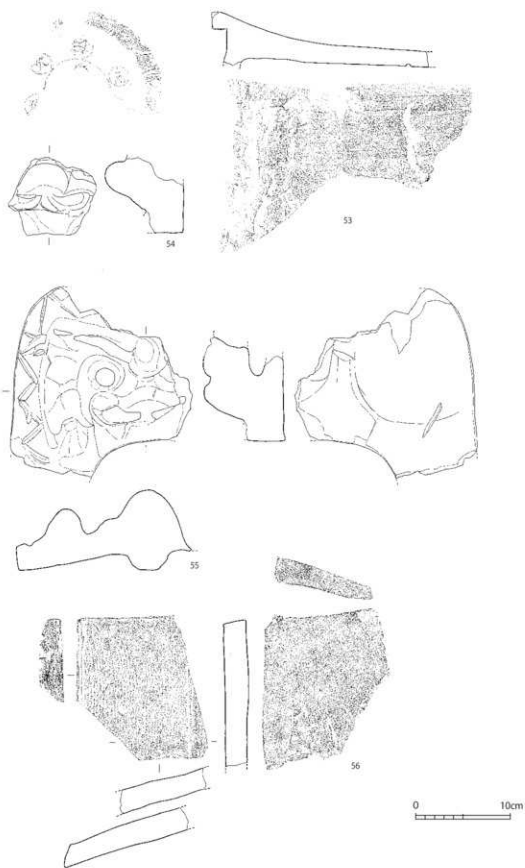
第5-14図 08-SD068出土遺物実測図③ (1/4)



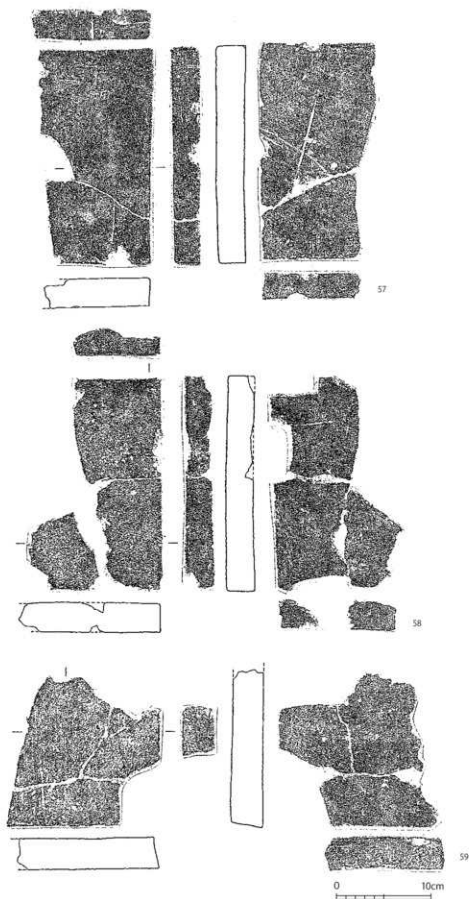
第5-15図 08-SD068出土遺物実測図④ (1/4)



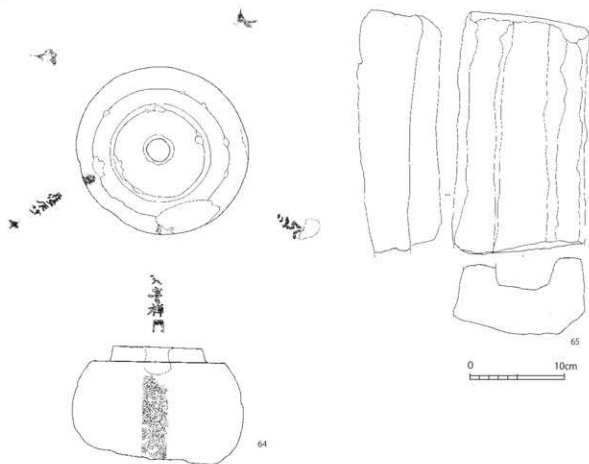
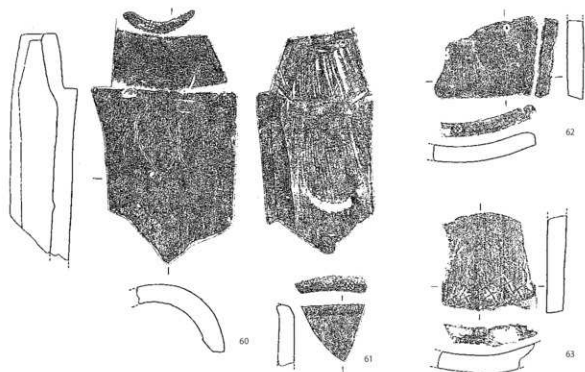
第5-16図 08-SD068出土遺物実測図⑤ (1/4)



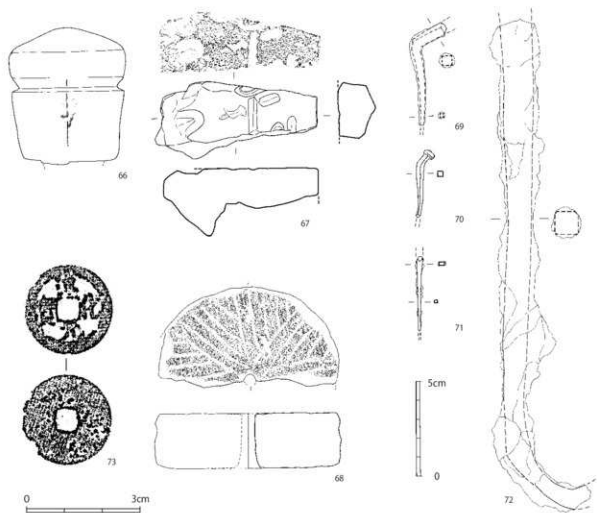
第5-17図 08-SD068出土遺物実測図⑧ (1/4)



第5-18図 08-SD068出土遺物実測図⑦(1/4)



第5-19図 08-SD068出土遺物実測図⑧ (1/4)



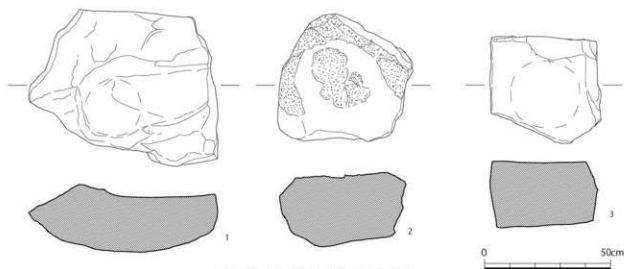
第5-20図 08-SD068出土遺物実測図⑨(1/1、1/2、1/4、1/6)

08-SD139・08-SD360 (第5-9図)

08-SD139はQ63～Q65区に位置する南北方向の溝で、南側は第10次調査区に伸びる。第8次調査区では、幅約2.0m、長さ約17.2m、深さ約0.9mを検出し、Q63区で北側の終息部を確認した。調査区の各地点で、土坑などの多くの遺構と切り合い関係を有するが、すべての遺構を切って構築されている。溝の断面形態は逆台形を呈する。遺構の下面には土壌が堆積する部位もあるが、遺構上面は頭大から拳大を主体とする礫や瓦片が当該部位を覆うように堆積していた。前述した08-SD068では遺構下面に礫、上面に土壌が堆積していたが、それとは対照的な堆積状況となる。溝上面には「礎石」と推定される大型の礫も存在した。また、Q63区では4個の大型の礫を意図的に並べた状況も認められた。大型の礫は安山岩製で、その大きさは幅45～80cm、長さ42～64cm、厚さ22～29cmを測る(第5-21図)。これらの礫にも必ず平坦面が形成されており、この面に径20cm強を測る円形の柱が据えられていた痕跡が観察できる。礫の表面が荒れているものがあり、これらは火災を受けた痕跡である可能性が考えられる。また、出土した瓦片などにも、明らかに変化したものが存在した。溝の中からは多量の礫とともに土器や陶磁器、瓦、石塔類などが出土した。出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅤ期(16世紀後半)に比定される。

礎石の出土
4個の礫を
並べる

火災痕跡



第5-21図 08-SD139礎石実測図(1/15)

08-SD360はQ64～Q65区に位置する南北方向の溝で、南側は第10次調査区に伸びる。第8次調査区では、幅約1.2m、長さ約2.0m、深さ約1.2mを検出し、Q64区で北側の終息部を確認した。遺構の主軸は08-SD139の東端部と重複する。溝の断面形態は略長方形を呈する。土層観察を実施した第8次調査区南壁付近では、当該部分に土坑状の掘り込み（攪乱？）が位置しており、SD139との切り合い関係を確認できなかった。埋土は3層に分層されるが、少量の遺物や礫を包含することのほか、特筆すべき事象はない。遺構の構築時期を決める良好な遺物が出土していないが、溝の位置関係から、当該遺構の年代もⅥ期（16世紀後半）に比定しておきたい。

08-SD139出土遺物（第5-22図・5-23図）

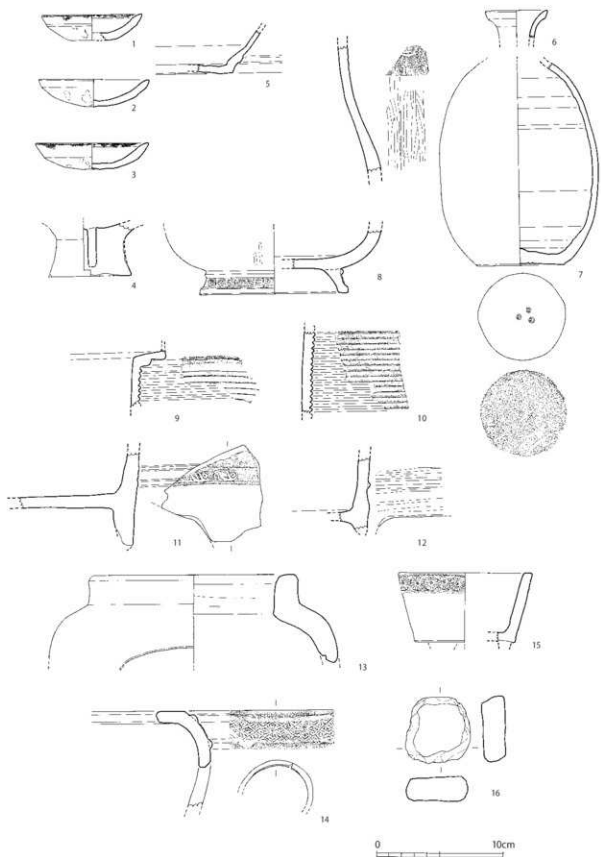
第5-22図1～3は京都系土師器の皿で、1と3の口縁端部内外面にはススの付着が認められる。4は土師質土器燗台で、口縁部を欠損する。底部には糸切り痕がなく、ナデが施されている。5は華南三彩の製品で、外面に緑軸を施し、内面は露胎となる。底部付近の外面には断面が方形を呈する低い突帯が認められ、底部は僅かに上げ底となる。6・7は備前焼徳利（瓶）である。6は口縁部の破片、7は肩部から底部にかけての破片で、7の底部外面には竹管による円形文が3箇所認められ、それぞれの円形文の中に、さらに小さな点文が2～3箇所に刺突されている。8は瓦質土器の瓶で、頸部外面と底部外面に雷文の刻印が連続して押圧されている。胴部外面には縦方向のミガキ調整がなされている。9～12は瓦質土器の火鉢で、いずれも在地系の製品である。11の外面には小さな突帯が2条施されており、突帯間には反頭蕨手文の刻印が認められる。13・14は瓦質土器の風炉、15は瓦質土器の香炉である。14と15の口縁部外面には刻印が施されている。16は瓦質土器の破片を円形に再加工した製品である。

第5-23図17は東播系須恵器の甕の胴部破片である。外面に平行叩き、内面に平行叩きと同心円の当具痕が認められる。18・19は石臼で、安山岩を素材とする。20・21は凝灰岩製の石塔類で、20は宝塔類の相輪、21は五輪塔の火輪である。

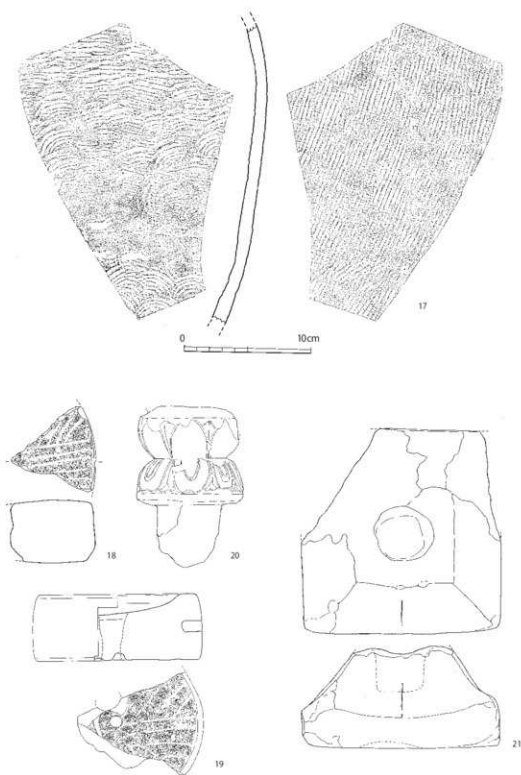
08-SD100（第5-24図）

R62～R63区に位置する南北方向の溝で、南側は第10次調査区に伸びる。第8次調査区では、最大幅約3.0m、長さ約29.0m、深さ約0.3mを検出し、R62区で北側の終息部を確認した。調査区の各地点で、土坑などの多くの遺構と切り合い関係を有するが、すべての遺構に切られている。溝の断面形態は略台形形で、底面は緩やかに湾曲する。埋土は土壌で形成され、4層程度に分層される。

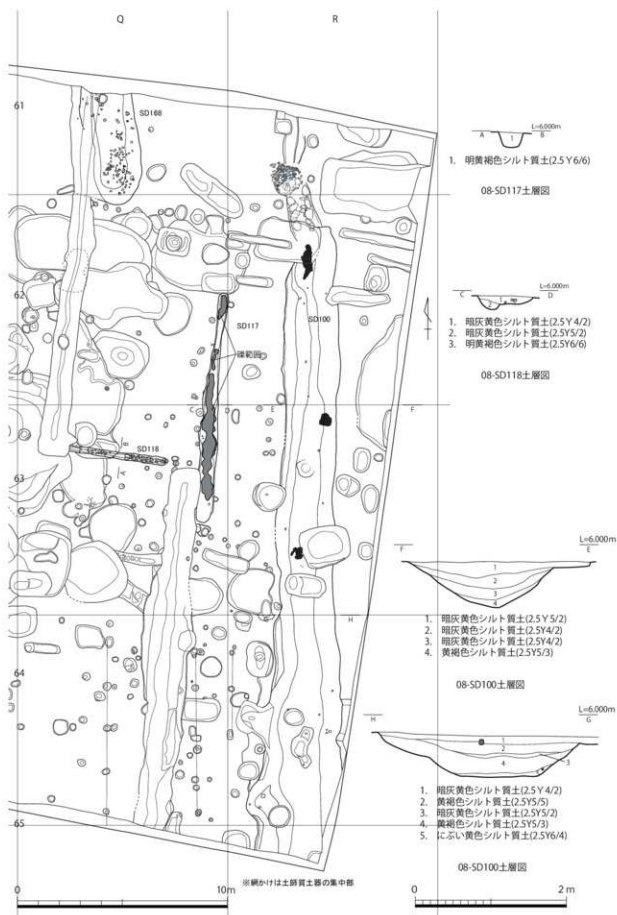
備前焼徳利
底部の円形
刺突文



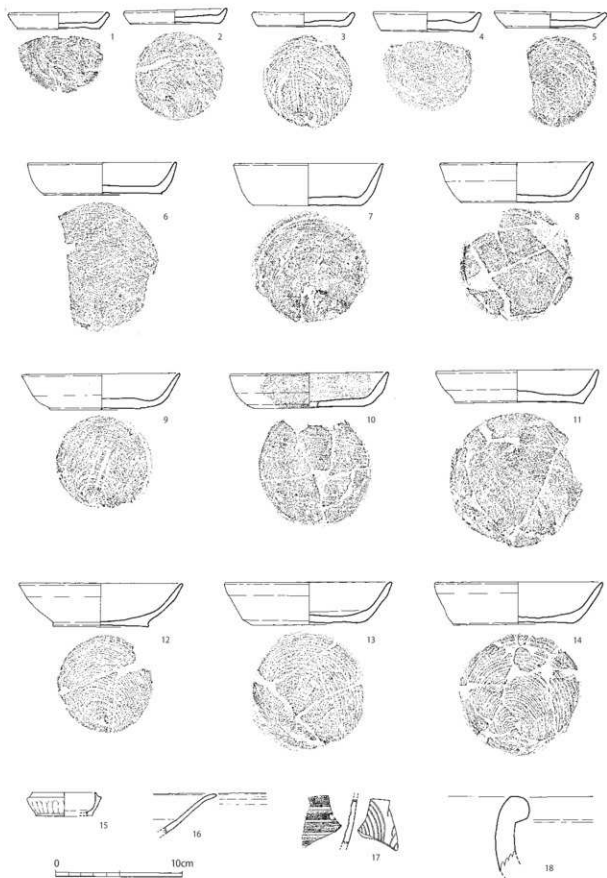
第5-22図 08-SD139出土遺物実測図① (1/3)



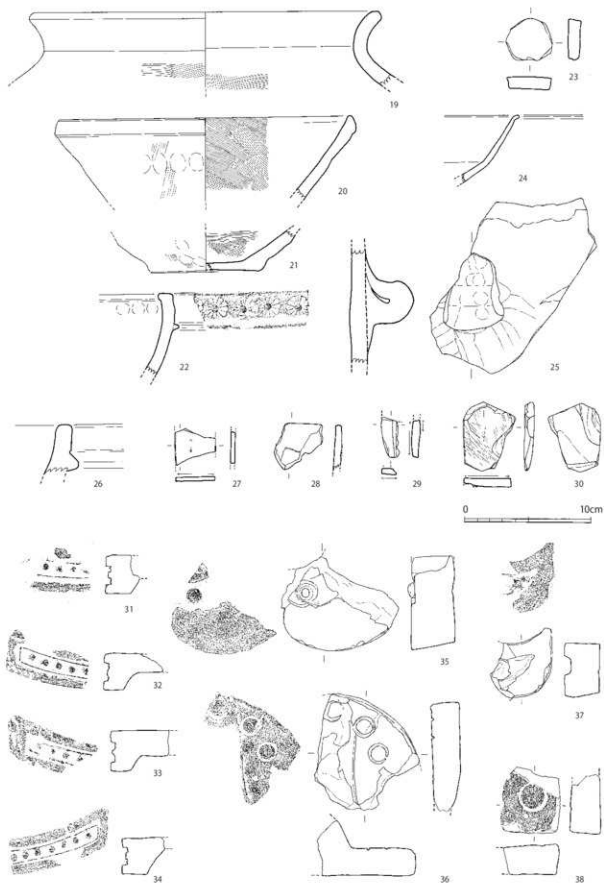
第5-23図 08-SD139出土遺物実測図②(1/3、1/6)



第5-24図 08-SD100・08-SD117・08-SD118・08-SD168実測図(1/80、1/50)



第5-25図 O8-SD100出土遺物実測図①(1/3)



第5-26図 08-SD100出土遺物実測図② (1/3)

土師質土器
の破片・
細片の
まとめり

が、特筆すべき事象はない。ただし、埋土上層に土師質土器の破片や細片をまとめて廃棄している地点が3箇所程度確認された。当該地点からの出土遺物の一部は、復元不可能な細片になっているものも多く、廃棄に当たって土師質土器を意図的に破砕している可能性が高い。

出土遺物には土師質土器・陶磁器類・瓦類がある。出土した土師質土器の様相は、おおむね14世紀に比定され、加えて土器類はすべて埋土上位付近から出土しているため、遺構構築の初源は創建期である14世紀初頭から前半代まで遡る可能性がある。このことを重視して、遺構の年代をI期(14世紀前半)に比定しておきたい。

08-SD100出土遺物(第5-25図・第5-26図)

第5-25図1～14は土師質土器で、1～5は小皿、6～14は坏である。坏のうち、10については内外面にススの付着が顕著、灯明具として使用されたことが確実である。また、13については胎土中に金雲母を含むことから、豊後府内以外の地域からの搬入品である可能性が高い。また、12については体部が丸味をもつ器形を呈するものであることから、SD100の出土品の中では古相を呈する資料である。当該資料の色調は赤色系であり、在地(豊後府内)周辺の製品であろう。15～18は中国産の青白磁または白磁で、15は青白磁合子身、16は白磁碗の口縁部、17は青白磁梅瓶の胴部破片である。18は備前焼大甕の口縁部である。

第5-26図19は瓦質土器甕の口縁部破片、20は東播系須恵器控鉢、21は瓦質土器鉢の底部である。22は瓦質土器鉢の口縁部から胴部にかけての破片で、口縁外面に断面三角形の突帯と菊花文の刻印を有する。23は瓦質土器の円形再加工品である。24は外面に黒釉が施されている製品(碗か?)で、中国産の可能性が考えられる。25は混入品と考えられる土師器の甌で、8～9世紀代に比定されるもの。いわゆる「豊後大分型甌」である。

20は滑石製石鍋の口縁部破片である。27～30は砥石の破片で、いずれも砂岩を素材とする。

31～38は瓦類である。31～34は連珠文軒平瓦で、万寿寺創建期に使用された瓦の一種である。

35～38は鬼瓦で、周辺の文様を珠文で表現するもの(35)と円形の竹管による刻印文で表現するもの(36・38)がある。いずれも、創建期に遡る年代に比定される資料と思われる。

創建時に
遡る鬼瓦

08-SD168(第5-24図)

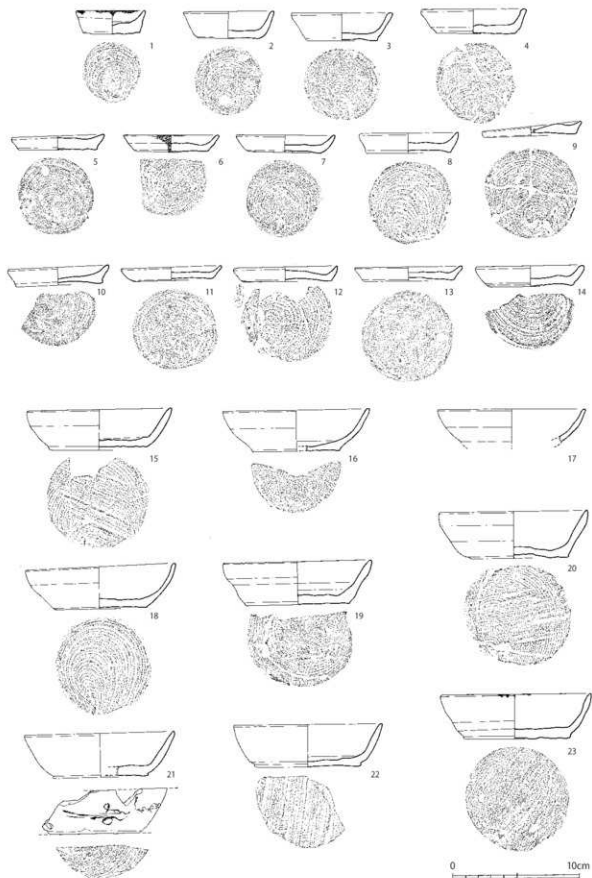
Q62～R63区に位置する南北方向の溝で、北側は第10次調査区に伸びる。第8次調査区では、最大幅約2.5m、長さ約5.7m、深さ約0.6mを検出し、R62区北端付近で南側の終息部を確認した。15世紀末から16世紀初頭頃の土坑08-SK051や当初土坑と考えていたS085、および16世紀後半の08-SD068と同じ場所で重複しており、遺構のプランを確認するのに手間取った。遺構の切り合い関係十分に確認せずに掘り下げを進めてしまったことから、同じ場所に構築されていた土坑SK051の底面を把握できずに掘り飛ばしてしまったことやSD168の僅かな埋土の色調の違いを別遺構と判断するなど、調査の不手際を認めざるを得ない結果となった。しかしながら、最終的には出土遺物や遺構の完掘状況から、当該遺構を溝と判断することができた。溝の断面形態は略U字形を呈する。埋土の上位から下位にかけて、土師質土器や礫、瓦などが多数出土している。出土遺物の年代観から、当該遺構も万寿寺創建期に遡るI期(14世紀前半)に比定しておきたい。

08-SD168出土遺物(第5-27図～第5-31図)

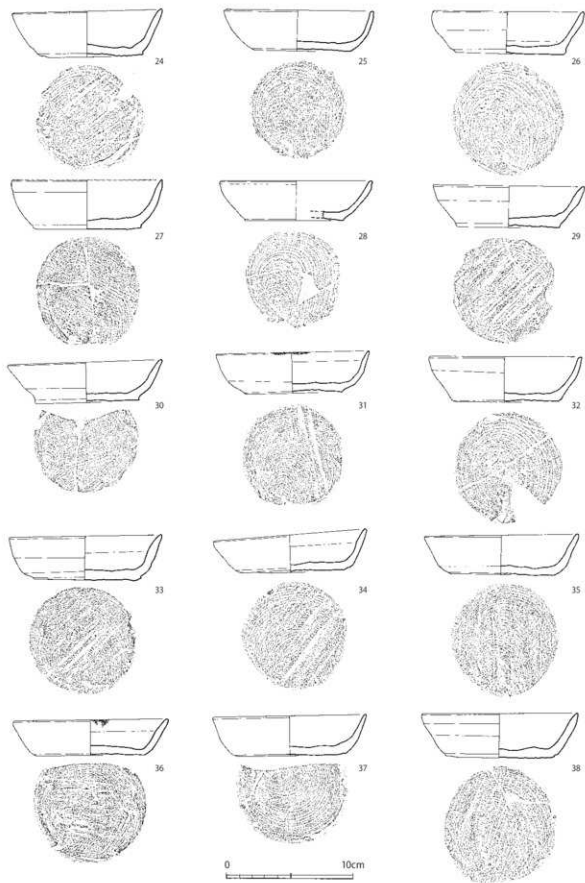
第5-27図1～14は土師質土器小皿で、器高が深いもの(1～6)と浅いもの(7～14)に大別される。このうち、1と6にはススの付着が顕著である。15～第5-28図52は土師質土器坏で、31・36・45にはススの付着が認められる。また、21の胴部外面には墨書による文字が認められる。53・54は吉備系土師器甕である。第5-30図55～58は皿Sに分類される京都産土師器皿である。59は底部に糸切り痕がある白色系土師器甕で、色調が淡褐色を呈する。60は東播系須恵器甕の胴部

調査の
不手際

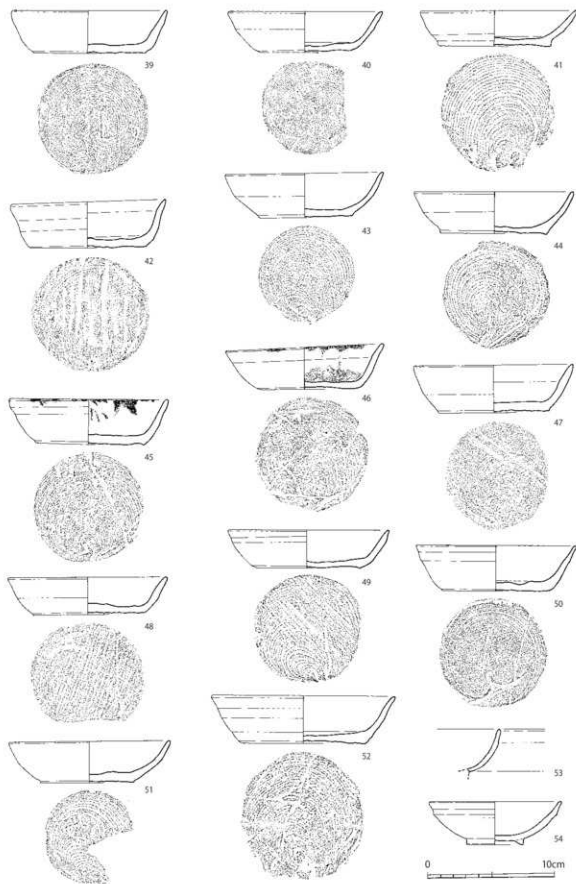
墨書の文字



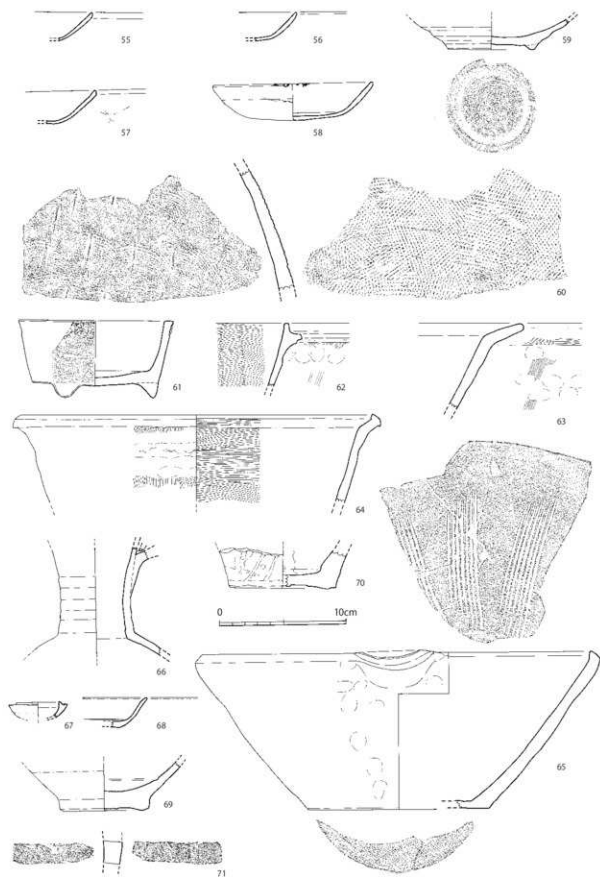
第5-27図 08-SD168出土遺物実測図① (1/3)



第5-28図 08-SD168出土遺物実測図② (1/3)



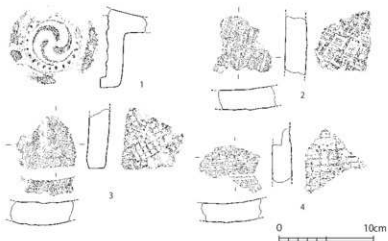
第5-29図 08-SD168出土遺物実測図③ (1/3)



第5-30図 08-SD168出土遺物実測図④ (1/3)

当具痕に
亀裂

で、外面に平行叩き、
内面に同心円当具痕が
認められる。同心円当
具痕には亀裂が入って
おり、いわゆる「車輪
文」の形状を呈してい
る。61～65は瓦質土
器で、61は口縁部外面
に菊花文の刻印をもつ
香炉、62～63は鍋、
65は内面に6条を1単
位とする横目をもつ播
鉢である。66～69は
中国産の白磁である。



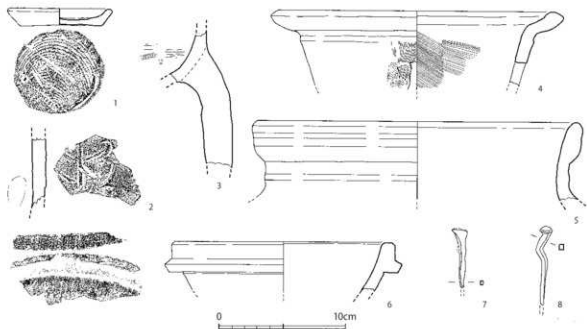
第5-31図 08-SD168出土遺物実測図⑤(1/4)

66は水注の頸部付近の破片で、把手の一部も残存している。67は合子の身の破片、68は口剥げとなる皿、69は碗の底部である。70は瀬戸美濃系陶器梅瓶の底部破片で、外面に灰軸が施されている。71は滑石製石鍋の破片である。

第5-31図1は巴文軒丸瓦で、瓦当径が小さい小型のもの。2～4は凸面に格子目叩きをもつ平瓦の破片である。平瓦は8～9世紀代に比定される遺物で、混入品であろう。

08-S085
遺物

第5-32図は08-S085として取り上げた遺物で、本来、溝SD168の埋土の一部であったが、土壌の色調の僅かな違いを別遺構として認識したものである。1は土師質土器小皿で、底部には糸切り痕が認められる。2は瓦質土器火鉢類で、外面に大きな木の葉状の文様がある。3は防長産の瓦質土器足鍋の脚部、4は瓦質土器の鉢、5は備前焼大甕の口縁部、6は滑石製石鍋の口縁部である。以上の内、3や5は15世紀代以降の遺物であるため、混入品もしくは取り上げミスが考えられる。7・8は鉄釘、9・10は銅銭である。



第5-32図 08-S085出土遺物実測図①(1/3、1/2)



第5-33図 08-S085出土遺物実測図②(1/1)

第5-33図9・10は銅銭である。9は初鑄造年1078年の北宋銭である元豊通寶。10は南宋の景定年間(1260～1264)に製作された景定元寶である。背面の穿上に数字とみられる文字があり、鑄出により断定できないが、「五」と判読できる可能性がある。これが妥当であるとすれば、銭貨の年代は1264年に比定される。

背面穿上に
「五」か？

08-SD117 (第5-24図)

Q62～Q63区に位置する南北方向の溝で、その規模は幅約1.7m、長さ約11.9m、深さ約0.2mを測る。Q63区で16世紀後半の溝08-SD139に切られている。溝の規模は小さいが、埋土中から拳大の礫や小礫が多数出土した。何らかの区画溝と思われるが、遺構の詳細な性格は明らかにできていない。埋土中からは礫のほか、陶磁器破片や瓦質土器が少量出土した。しかしながら、遺構の詳細な時期を決定するものはない。出土遺物や切り合い関係などから、遺構の時期はⅢ～Ⅳ期(14世紀末～15世紀)に比定しておきたい。

埋土中に
礫多数

08-SD117出土遺物(第5-34図)

1は青磁瓶類の胴部破片で、中国龍泉窯の製品と思われる。2は中国産白磁の合子の身で、底部の破片である。外面に蓮弁状の文様がある。3は瓦質土器土鍋で、底部近くの内外面に刷毛目調整が残存する。4は用途不明の石製品で、中央に浅い溝を設けている。石錘などの漁撈に関する遺物であろうか。



第5-34図 08-SD117出土遺物実測図(1/3)

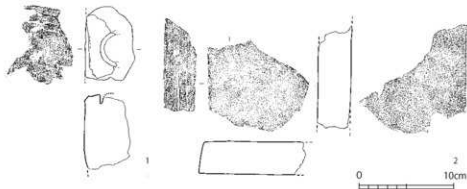
08-SD118 (第5-24図)

埋土中に
礎

Q62～Q63区に位置する東西方向の溝で、その規模は幅約0.5m、長さ約6.4m、深さ約0.1mを測る。いくつかの土坑を切って構築されているほか、西端部を16世紀後半の溝08-SD068に切られている。溝の規模は小さいが、埋土中から頭大の礫が多数出土しており、大きな礫の中には、底面からやや浮いた状態で、並べられたように見受けられるものもあった。礫の一部は赤変もしくは被熱していた。出土遺物は少量で、構築時期を明らかにできるものはない。ただし、遺構の主軸が08-SD117とほぼ直角になることから、両者は何らかの関係があるものなのかもしれない。以上のことから、遺構の時期は不明であるが、その位置や切り合い関係から、Ⅲ～Ⅳ期（14世紀末～15世紀）を想定しておきたい。

08-SD118出土遺物 (第5-35図)

1は鬼瓦で、周縁部に竹管による円形文が押圧されている。2は塼である。



第5-35図 08-SD118出土遺物実測図(1/3)

3 土坑

08-SK051 (第5-36図)

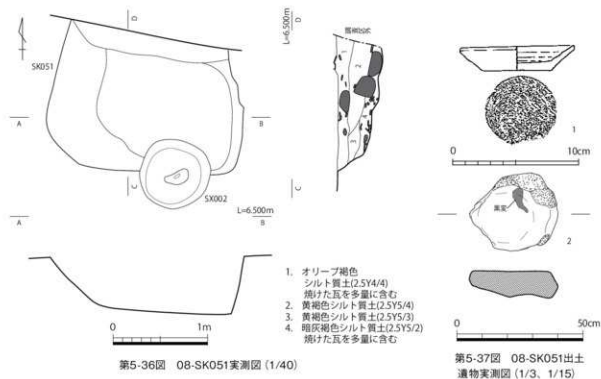
被熱した
多量の瓦片

火災処理
遺構

Q61区に位置する土坑で、第8次調査区で確認した遺構の規模は東西20m、南北1.5m、深さ約50cmである。遺構の北側は調査区外に延びる。前述したように、遺構は14世紀の溝08-SD168や16世紀後半の溝08-SD068、および近現代の柱穴状遺構08-SX002と重複していた。遺構の切り合い関係はSD168→SD068→SK051→SX002となる。埋土は4層に分層され、上位の1層と下位の4層には被熱した瓦や礫が多量に含まれる。また、埋土の上位からは玉砂利として使用されたと推定される白色の小礫が混在しており、また埋土の下位からは礎石と推定される安山岩製の礫も出土した。出土する瓦の大部分は破片で、その中には被熱して赤変しているものが多い。遺構の性格は、16世紀末頃に勃発した火災に対応する火災処理遺構である可能性が高い。埋土の上位から完形品に近いロクロ目土師器皿が出土しており、これが唯一図示可能な遺物である。遺構の状態や出土遺物から、遺構の時期はⅦ期（16世紀末）に比定される。

08-SK051出土遺物 (第5-37図)

1はロクロ目土師器と呼称される土師質土器の皿である。内面に顕著なロクロ目があり、底部には回転糸切り痕が残る。この種の土器は15世紀末頃に出現するが、16世紀以降も一定量が生産され

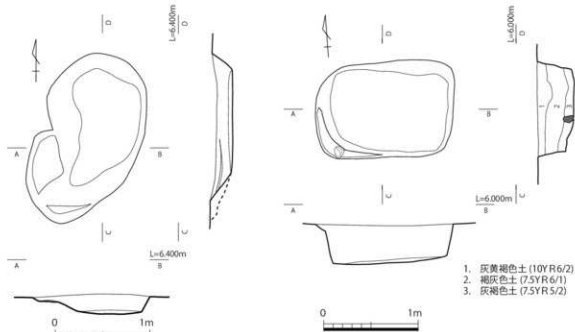


続けた製品だといわれている。2は安山岩製の礎石と思われる礫で、幅33cm、長さ20cm、幅10cmをはかる。礎石としては、小型のものであろうか。平坦面には火災の影響を受けた黒変部分が認められる。

08-SK052 (第5-38図)

被熱した
多量の瓦片

Q61～Q62区に位置する土坑で、遺構の規模は東西1.4m、南北1.8m、深さ30cmである。遺構は14世紀の溝08-SD168の上面に構築されていた。遺構の埋土上位から下位にかけて、多量の礫や瓦片が出土した。瓦の中には被熱で赤変しているものが多い。遺構の完掘状況は2～3基の土坑が切



火災処理
遺構

り合っているようにも見えるが、埋土の全体に瓦片や礫がまんべんなく出土していることから、1基の土坑に間違いないと判断した。埋土などの状況は、前述した08-SK051と共通する事象が多い。このため、当該遺構についても、16世紀末頃に勃発した火災に対応する火災処理遺構である可能性が高いと考える。出土遺物に図示可能なものはない。遺構の状態などから、その時期はⅦ期（16世紀末）に比定される。

08-SK053 (第5-39図)

P61区に位置する土坑で、遺構の規模は東西1.45m、南北1.0m、深さ38cmである。埋土は土壌で形成されており、3層に分層される。最下層に少量の焼土ブロックを含むほかは、特筆すべき事象はない。図示可能な出土遺物も認められなかった。そのため、遺構の詳細な時期は不明であるものの、調査当初に検出した遺構であることなどを勘案して、その時期をⅦ期（16世紀末）以降に比定しておきたい。

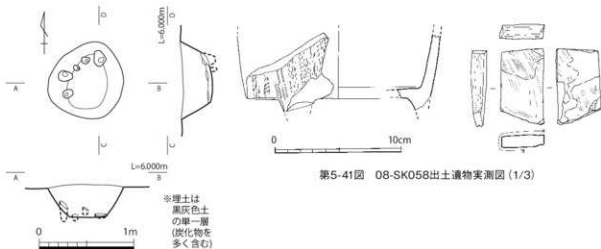
08-SK058 (第5-40図)

埋土に炭化物を多量に含む

R62区に位置する小型の土坑で遺構の平面プランは略円形を呈する。遺構の規模は東西0.8m、南北0.8m、深さ30cmである。埋土は黒褐色土の単一層で、炭化物を多量に含む。埋土中には瓦片・土器片・礫が少量含まれる。床面には小穴が5個あり、不用意に掘り下げてしまったが、人為的なものではなく、植物痕跡などの可能性が考えられる。出土遺物には遺構の時期を決める資料はないが、調査当初に検出されたことから、遺構の年代はそれほど古くはならないであろう。遺構の詳細な時期は不明であるものの、調査当初に検出した遺構であることなどを勘案して、その時期をⅦ期（16世紀末）以降に比定しておきたい。

08-SK058出土遺物 (第5-41図)

1は瓦質土器の香炉または火鉢で、外面にミガキ調整が行われている。2は砥石で、石材は砂岩である。



第5-40図 08-SK058実測図 (1/40)

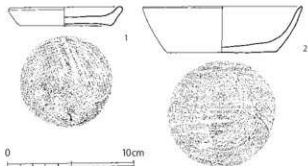
第5-41図 08-SK058出土遺物実測図 (1/3)

08-SK060

R62区に位置する遺物集中部である。当該地点には土師質土器の坏や皿、その他の破片や瓦片が集中していた。遺構のプランを確認できなかったが、遺物の出土状態から、当該遺構は小規模な土坑であったと推定される。出土遺物から、遺構の時期はⅡ期（14世紀後半）に比定される。

08-SK060出土 遺物 (第5-42図)

1は土師質土器小皿、2は土師質土器坏である。いずれも、底部に糸切り痕と板状圧痕が認められる。



第5-42図 08-SK060出土遺物実測図 (1/3)

08-SK061

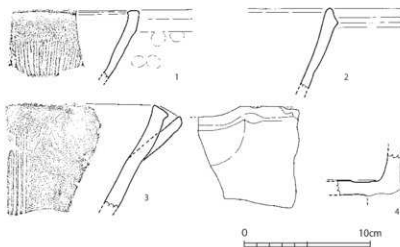
R62区に位置する遺物集中部である。当該地点には東西1.4m、南北0.9mの範囲に瓦片、土器片などが集中していた。遺構のプランを確認できなかったが、遺物の出土状態から、当該遺構は小規模な土坑であると推定される。

出土遺物の中に備前焼掻鉢があり、

当該遺物により遺構の年代を判定した。遺構の時期は、Ⅲ期 (14世紀末～15世紀前半) に比定される。

08-SK061出土遺物 (第5-43図)

1は瓦質土器掻鉢の口縁部、2は瓦質土器鉢の口縁部である。3は備前焼掻鉢で、備前焼編年3期b (15世紀前半) の製品である。4は瓦質土器の火鉢類で、底部付近の破片である。脚部が剥離した痕跡が認められる。

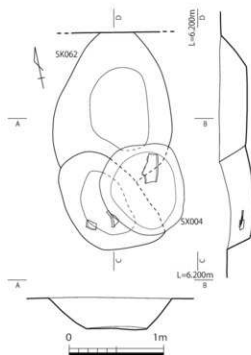


第5-43図 08-SK061出土遺物実測図 (1/3)

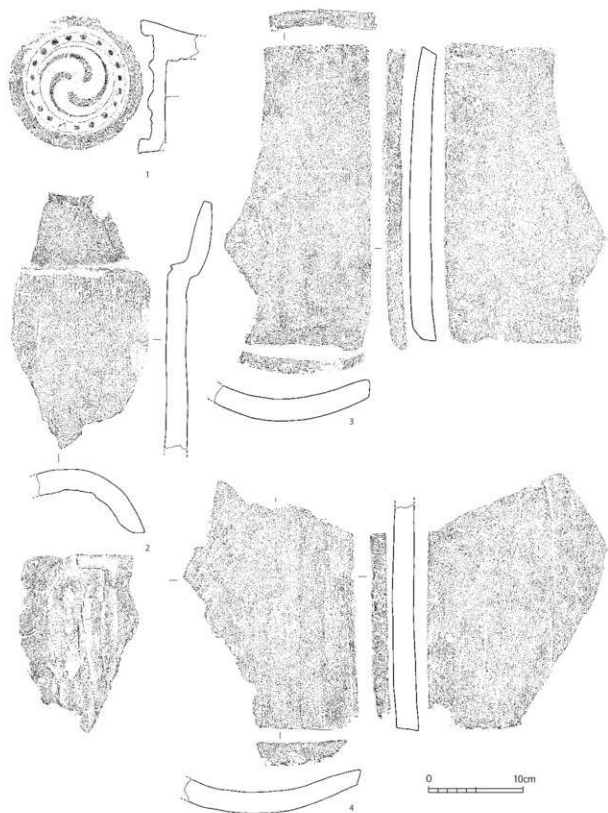
08-SK062 (第5-44図)

Q61～R61区に位置する土坑で、遺構の規模は東西1.25m、南北2.3m、深さ25cmである。近現代の柱穴状遺構08-SX004と重複しており、遺構の切り合い関係はSK062→SX004となる。埋土中には礎や土器類・瓦などを含み、堅く締まった性状を呈していた。さらに、埋土中には白色の玉砂利が多く含まれる。検出時は当該遺構をひとつの土坑と考えていた

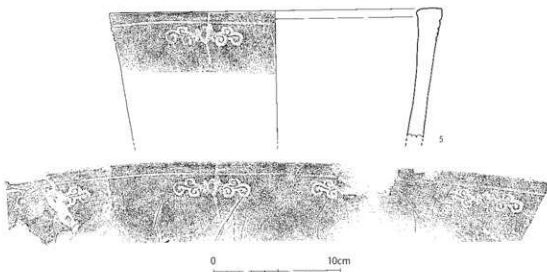
白色の
玉砂利



第5-44図 08-SK062実測図 (1/40)



第5-45図 08-SK062出土遺物実測図①(1/4)



第5-46図 08-SK062出土遺物実測図②(1/3)

が、完掘時の状況を見ると、2基以上の土坑が切り合っていた可能性が考えられる。出土遺物から、遺構の時期はⅢ・Ⅳ期(14世紀末～15世紀)に比定される。

08-SK062出土遺物(第5-45図・第5-46図)

第5-45図1は軒丸瓦で、瓦当文様は尾部の長い左回転の巴文と19個の珠文である。2は丸瓦で、凸面に縄目叩きが施されている。3・4は平瓦である。第5-46図5は瓦質土器鉢で、口縁端部の外面下に1条の沈線を施し、さらにその下位に花唐草文の刻印をもつ。特徴的な出土品であるが、詳細な年代を判定する資料に恵まれていない。

08-SK063

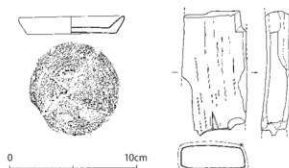
Q61区に位置する遺物集中部である。当該地点には東西約0.4m、南北約2.0mの範囲に土師質土器片や礫などが集中していた。遺構のプランを確認できなかったが、遺物の出土状態から、当該遺構は楕円形プランの土坑であったと推定される。遺物の出土状態は良好であり、出土遺物の一括性は高い。出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅡ期(14世紀後半)に比定される。

08-SK063出土遺物(第5-47図)

1は土師質土器で、底部に回転糸切り痕が認められる。2は砂岩を素材とする砥石である。

08-SK065

Q61区に位置する遺物集中部である。当該地点には東西約1.0m、南北約0.8mの範囲に瓦片が集中していた。16世紀後半の溝08-SD068を切って構築されている。遺構のプランを確認できなかったが、遺物の出土状態から、略円形プランの土坑であったと推定される。



第5-47図 08-SK063出土遺物実測図(1/3)

瓦片の中には、被熱により赤変しているものも認められる。出土遺物の中に瓦片以外のものはなく、出土遺物は図示していない。遺構の切り合い関係から、遺構の年代はⅥ期(16世紀末)に比定される。

08-SK070 (第5-48図)

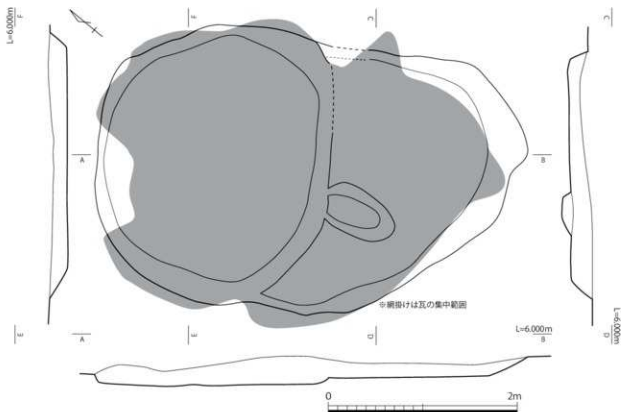
瓦溜め

F62区に位置する遺構で、瓦が大量に廃棄された、いわゆる「瓦溜め」の土坑である。遺構の規模は東西2.7m、南北4.55m、深さ30cmである。検出時には瓦を主体とする遺物が同時期に一括廃棄されたものと考えていたが、遺物の出土状況や完掘時の土坑の形状を検討すると、少なくとも2回以上の廃棄があったことが観察できる。しかしながら、発掘調査時には廃棄の細かい単位を判別しておらず、遺物を一括して取り上げてしまっている。出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅣ期(15世紀中頃～後半)に比定される。

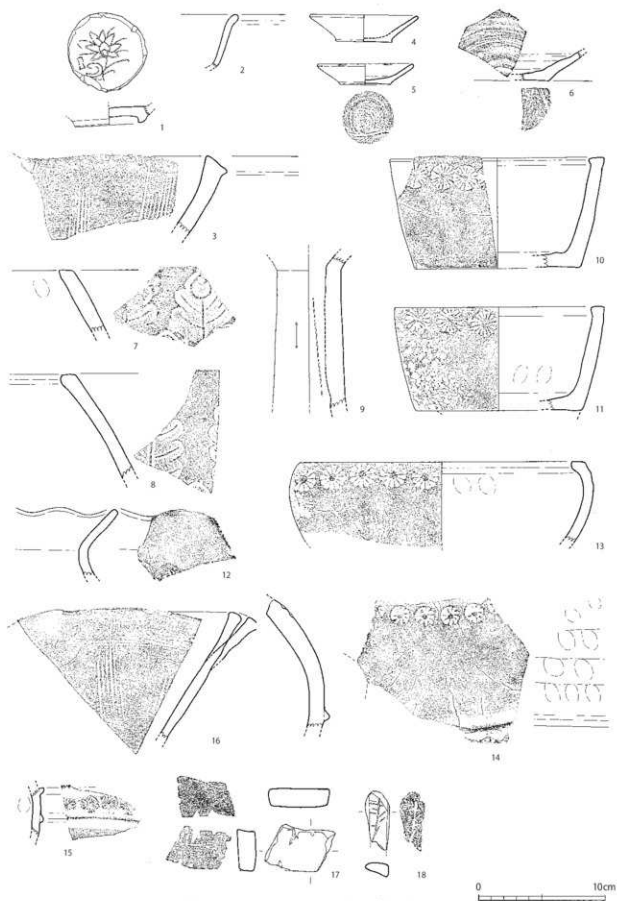
08-SK070出土遺物 (第5-49図・第5-57図)

第5-49図1・2は中国龍泉窯系青磁の碗で、いずれも15世紀代の製品である。1は見込みに花文を刻印するもので、高台部周辺を円形に再加工する。2は口縁部の破片で、端部がわずかに外反している。3は備前焼播鉢の口縁部で、備前焼暦年3期b(15世紀前半)に暦年される製品である。4・5は土師質土器小皿で、口縁部が大きく開く形態を呈する。5の口縁端部内外面にはススの付着が認められる。6は土師質土器坏で、内面にナデを施し、底部に糸切り痕が認められる。類例が少ない資料で、産地不明である。7～16は瓦質土器である。7・8は火鉢類で外面に宝珠と木の葉状文を組み合わせた文様を刻印する。9は筒状の脚部を有する製品であるが、器種不明。10・11は火鉢または大型の香炉で、口縁部外面に刻印による菊花文を押圧する。12は鉢で、波状口縁となり、胴部の刻印は巴文である。13～15は風炉または火鉢で、菊花文の刻印が特徴的である。16は瓦質土器播鉢で、外面に指頭痕、内面に6条を一単位とする播目が認められる。17・18は滑石製石鍋の再加工品である。18は外面に線刻が認められる。

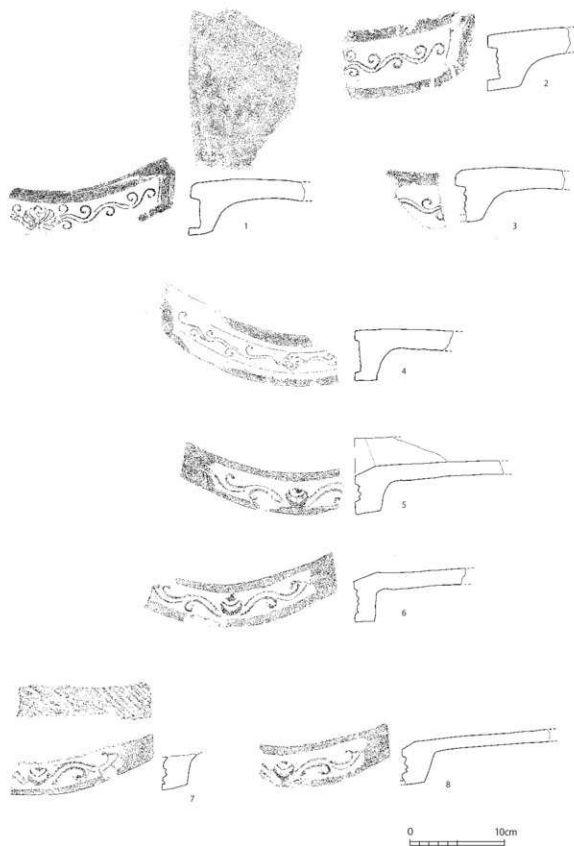
第5-50図1～3は蓮華唐草文軒平瓦である。1は瓦当の顎部に横ナデを施し、凹面に布目が残るなど、この種の軒平瓦の中ではやや特殊な資料である。4は菱形唐草文軒平瓦で、豊後府内「称



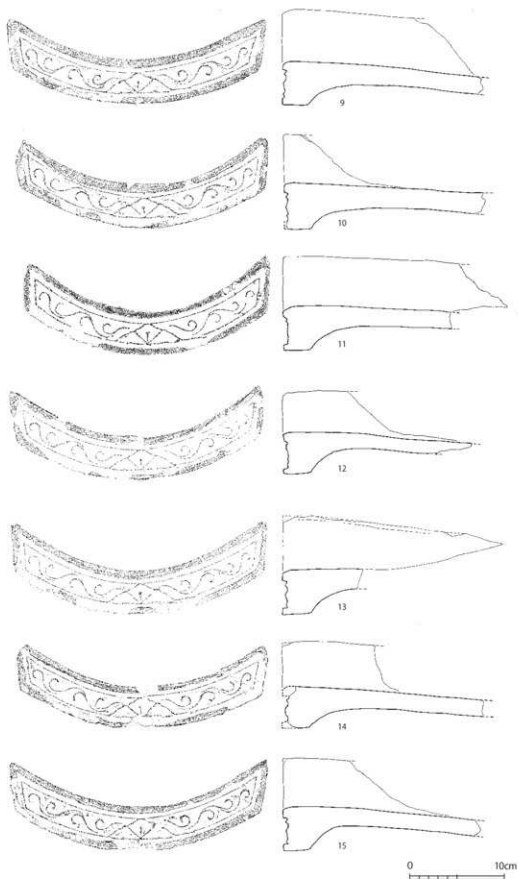
第5-48図 08-SK070実測図(1/40)



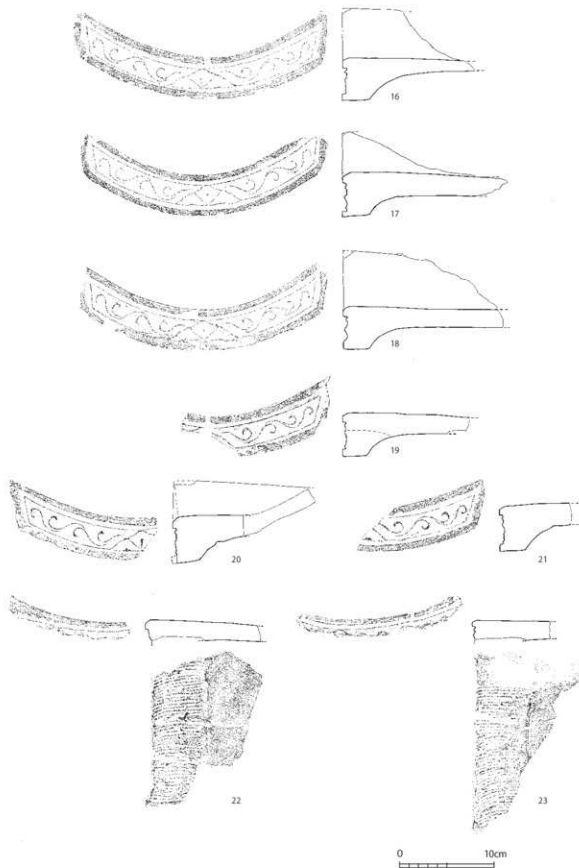
第5-49図 08-SK070出土遺物実測図①(1/3)



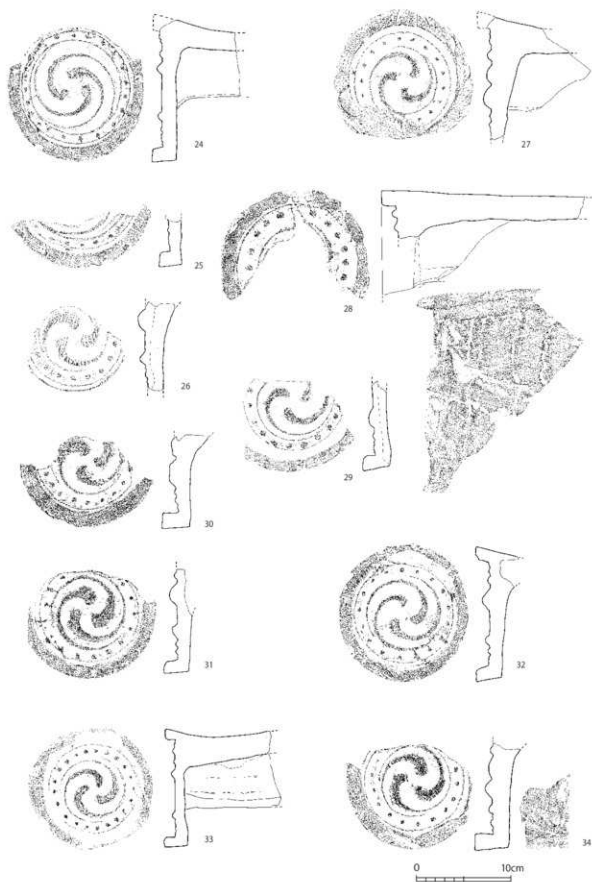
第5-50図 08-SK070出土遺物実測図② (1/4)



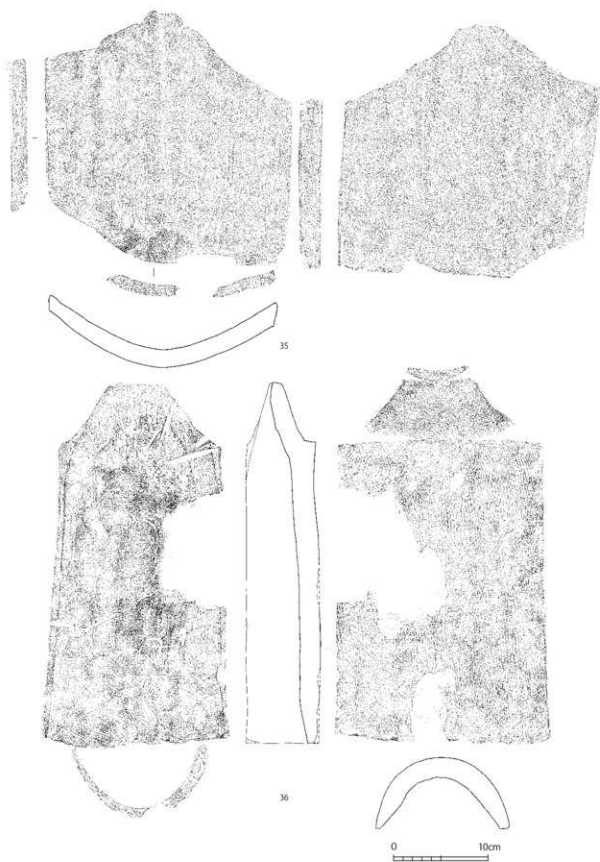
第5-51図 08-SK070出土遺物実測図③ (1/4)



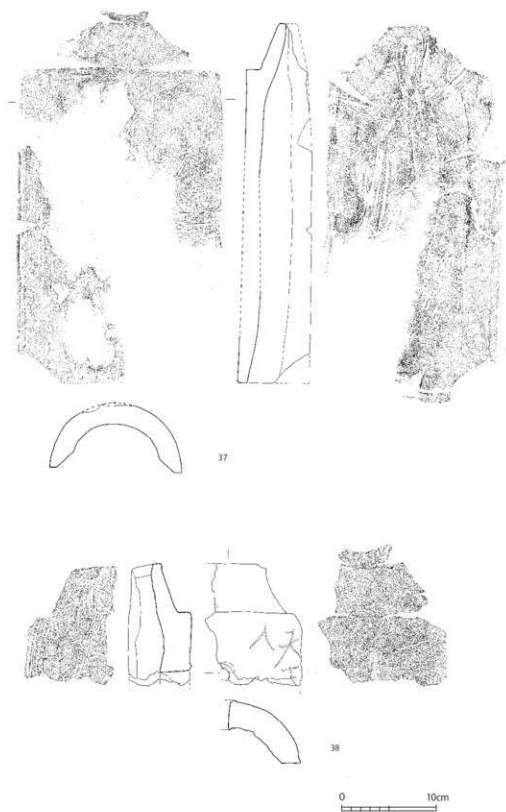
第5-52図 08-SK070出土遺物実測図④(1/4)



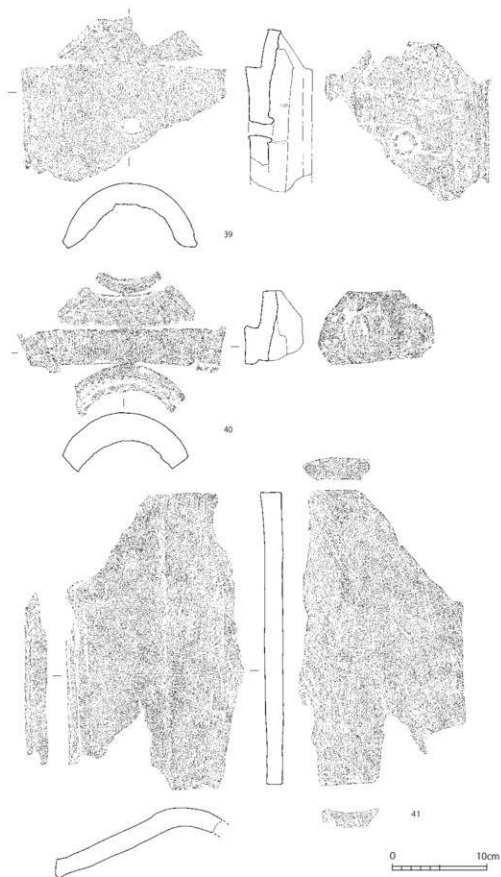
第5-53図 O8-SK070出土遺物実測図⑤ (1/4)



第5-54図 08-SK070出土遺物実測図⑥(1/4)



第5-55図 O8-SK070出土物実測図② (1/4)



第5-56図 08-SK070出土遺物実測図⑧ (1/4)



第5-57図 08-SK070出土遺物実測図⑨ (1/4)

顎貼付技法

名寺」の創建期で多用された資料である。5～8は宝珠唐草文軒平瓦である。瓦范の左右が切り詰められており、瓦当文様の右端には范キズが認められる。また、7は顎貼付技法が観察できる資料であり、剥離面に顎部の接合を強固にするための連続直線による刻みが施されている。9～23は半載四菱唐草文軒平瓦である。22・23は顎貼付技法が観察できる資料であり、剥離面に顎部の接合を強固にするための連続直線による刻みが施されている。第5-53図24～34は巴文軒丸瓦である。このうち、24・25は尾部の末端部が相互に引っ付き、圏線状となる。26は巴文に瓦范に使用された木製范の木目が目立つ。

ヘッ書き文字「天下
□/人□」

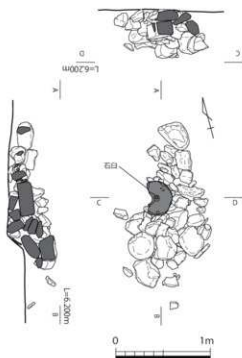
第5-54図35は平瓦、36～第5-56図39は丸瓦である。このうち、38の凸面には「天下□/人□」のヘッ書き文字が認められる。39には釘穴が設けられている。40は丸瓦の丸瓦部と玉縁部付近で切断されており、この状態で完存品となる。特殊な面戸瓦であろうか。41は雁振瓦、第5-57図42～43は埴である。

08-SK073 (第5-58図)

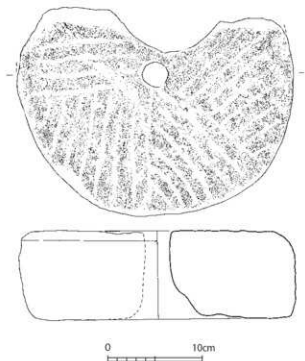
R63区に位置する遺物集中部である。当該地点には東西約0.7m、南北約1.2m、深さ約40cmの範囲に頭大の礫が集中していた。遺構のプランを確認できなかったが、遺物の出土状態から、当該遺構は略楕円形プランの土坑であったと推定される。瓦片の中には、礫の中には石臼が混在していたが、土器などの遺物は認められなかった。出土遺物の中で、遺構の詳細な時期を確定できるものはない。従って、遺構の年代は不明である。

08-SK073出土遺物 (第5-59図)

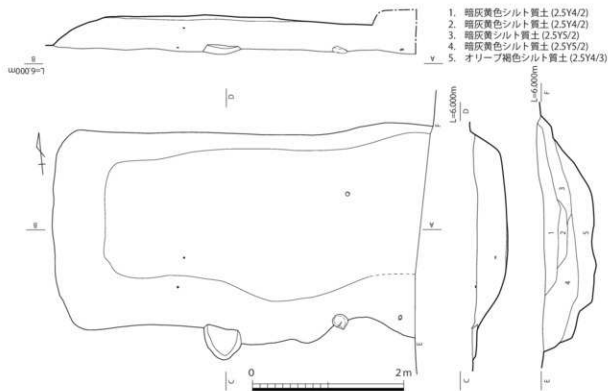
図示した遺物は、石臼の下臼である。安山岩を素材とする。



第5-58図 08-SK073実測図 (1/40)



第5-59図 08-SK073出土遺物実測図 (1/4)



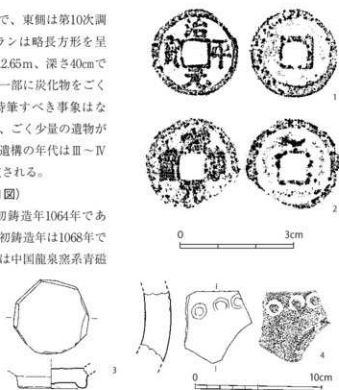
第5-60図 O8-SK082実測図 (1/50)

O8-SK082 (第5-60図)

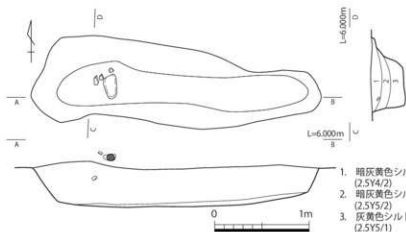
R61～R62区に位置する土坑で、東側は第10次調査区に伸びる。遺構の平面プランは略長方形を呈し、その規模は東西4.9m、南北2.65m、深さ40cmである。埋土は5層に分層され、一部に炭化物をごく少量含むものの、それ以外に特筆すべき事象はない。埋土中から銅銭2枚のほか、ごく少量の遺物が出土している。出土遺物から、遺構の年代はⅢ～Ⅳ期（14世紀末～15世紀）に比定される。

O8-SK082出土遺物 (第5-61図)

1は北宋銭の治平元寶で、初鑄造年1064年である。2は北宋銭の熙寧元寶で、初鑄造年は1068年である。背面に穿上月がある。3は中国龍泉窯系青磁碗で、高台部周辺を残して円形に再加工した製品である。4は瓦質土器火鉢の胴部片で、外面に竹管による円形文が刺突されている。



第5-61図 O8-SK082出土遺物実測図 (1/1、1/3)



第5-62図 08-SK083実測図 (1/40)

08-SK083 (第5-62図)

R62区に位置する土坑で、遺構の平面プランは溝状を呈する。その規模は東西0.7m、南北0.8m、深さ30cmである。14世紀前半の溝SD100を切って構築されている。埋土は3層に分層され、それぞれに焼土粒・炭化物を少量含むが、その他に特筆すべき事象はない。埋土中から有溝丸形土鏝が1点出土した。切り合い関係や出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅡ期(14世紀後半)に比定される。

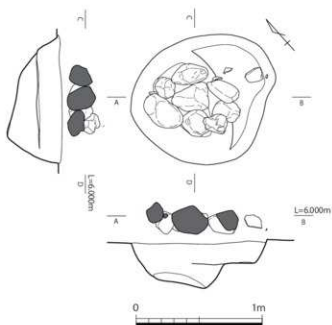
08-SK083出土遺物 (第5-63図)

図示した遺物は、有溝丸形土鏝である。中央に貫通孔を有するほか、側面に1条の溝を設けている。同伴遺物はないものの、近年の調査で、この種の土鏝は14世紀代に比定されることが判明している。

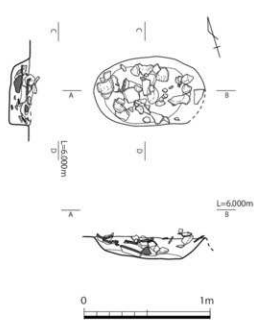
第5-63図 08-SK083出土遺物実測図 (1/3)

08-SK084 (第5-64図)

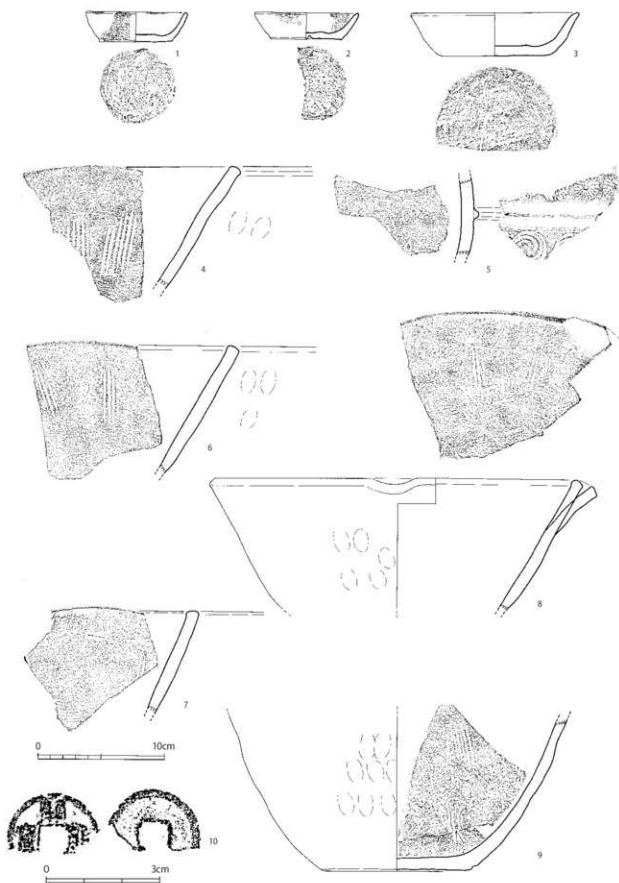
R63区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西1.2m、南北1.0m、深さ34cmである。遺構の上面から拳大の礫9個がまとも出土した。その他、若干の土器片が出土したが、図示可能なものは認められない。遺構の年代は不明である。



第5-64図 08-SK084実測図 (1/30)



第5-65図 08-SK087実測図 (1/30)



第5-66図 08-SK087出土遺物実測図 (1/3、1/1)

08-SK087 (第5-65図)

R63～R64区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西0.9m、南北0.5m、深さ18cmである。埋土には炭化物を多量に含む。埋土上位から土師質土器小皿や銅銭のほか、埋土中から礫・土器片・瓦片などが多量に出土した。出土遺物の年代観から、遺構の年代は、Ⅲ・Ⅳ期(14世紀末～15世紀)に比定される。

08-SK087出土遺物 (第5-66図)

1・2は土師質土器小皿で、いずれもススが附着している。2の底部外面中央には未貫通孔がある。3は土師質土器坏で、口縁部がやや外反する。底部には糸切り痕のほか、板状圧痕が認められる。4は瓦質土器で、火鉢または風炉の胴部破片である。破片の外面中央に断面が台形の突帯を有し、菊花文や巴文のスタンプが施文されている。5～9は瓦質土器播鉢である。10は中国唐代の621年に初鑄された開元通寶である。



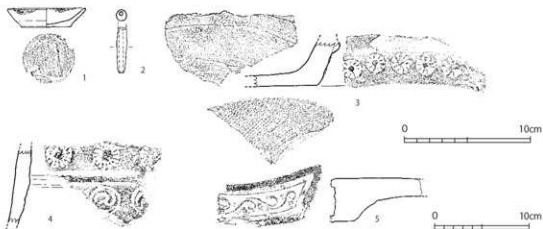
1. 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)
2. にぶい黄色シルト質土(2.5Y6/3)
3. 黄灰色シルト質土(2.5Y6/1)
4. 黄灰色シルト質土(2.5Y5/1)

第5-67図 08-SK088実測図(1/40)

08-SK088 (第5-67図)

P62区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西1.55m、南北2.05m、深さ約1mである。土坑08-SK104や08-SK110、08-SK120と切り合い関係を有し、これらを切って構築されている。埋土からは多量の瓦片や土器片、小礫が出土した。瓦片はすべて破片で、被熱により赤変しているものも多い。埋土は4層に分層され、下層になるほど遺物が多い。遺構の性格としては、火災処理土坑である可能性が高い。出土遺物から、遺構の年代はⅣ期(15世紀中頃から後半)に比定される。

火災処理
遺構



第5-68図 08-SK088出土遺物実測図(1/3、1/4)

08-SK088出土遺物 (第5-68図)

1は土師質土器小皿で、口縁部内外面にススの付着が認められる。2は土錘で、上端部を欠損する。3・4は瓦質土器の火鉢類で、いずれも外面に高さの低い突帯と菊花文・巴文の刻印が施されている。5は半截菱形唐草文軒平瓦である。

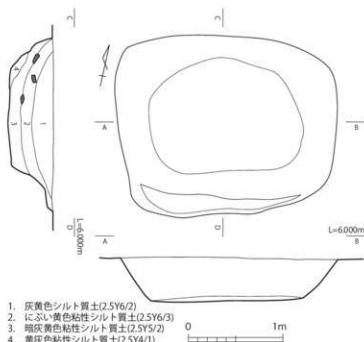
08-SK090 (第5-69図)

R63区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西2.35m、南北1.9m、深さ45cmである。14世紀前半の溝08-SD100と切り合い関係を有し、この溝を切って構築されている。遺構埋土は4層に分層され、土器・石製品などの遺物量出土した。遺構の切り合い関係と出土遺物の年代観から、遺構の年代はⅡ期(14世紀後半)に比定される。

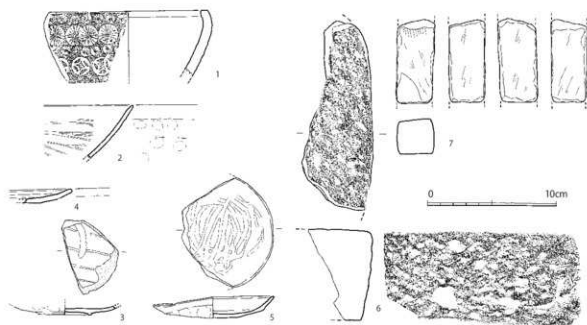
08-SK090出土遺物(第5-70図)

1は瓦質土器の鉢である。口縁部が内湾し、外面に大小の菊花文、銭貨文の刻印が器表面を埋め尽くすように刻印されている。2・3は和泉型瓦器碗、4・5は和泉型瓦器皿である。2～5は12～13世紀代に比定され、当該遺構でやまとまっで出土しているが、遺構の年代と矛盾するので混入品であろう。6は安山岩製の石臼で、目が磨滅していることや一辺が弧状を呈していないなど、再加工がなされた製品である。7は砂岩製の砥石である。

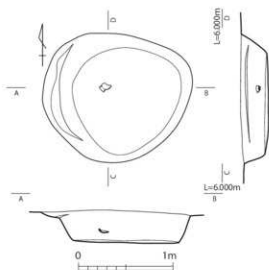
瓦器は
混入品



第5-69図 08-SK090実測図(1/40)



第5-70図 08-SK090出土遺物実測図(1/3)



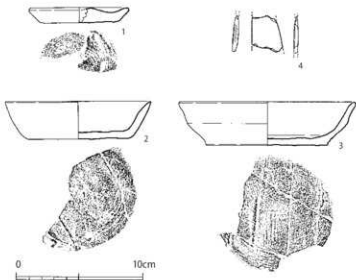
第5-71図 08-SK091実測図 (1/40)

08-SK091 (第5-71図)

R63区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略円形を呈する。その規模は東西1.6m、南北1.35m、深さ35cmである。14世紀前半の溝08-SD100と切り合い関係を有し、この溝を切って構築されている。遺構埋土は淡褐色土の単一層で形成されている。切り合い関係や出土遺物から、遺構の年代はⅡ期 (14世紀後半) に比定される。

08-SK091出土遺物 (第5-72図)

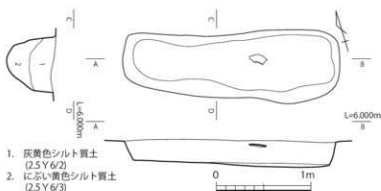
1は土師質土器小皿で、底部外面に糸切り痕が認められる。2・3は土師質土器で、底部外面には糸切り痕のほか、板状圧痕が認められる。4は砥石の破片である。



第5-72図 08-SK091出土遺物実測図 (1/3)

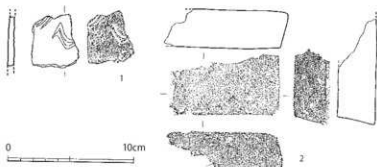
08-SK092 (第5-73図)

Q63～R62区に位置する土坑で、遺構の平面プランは溝状の長方形を呈する。その規模は東西2.3m、南北0.7m、深さ25cmである。15世紀後半の土坑08-SK136、時期不明の08-SK119と切り合い関係を有し、両者を切って構築されている。埋土中から遺物が少量出土しているが、遺構の詳細な時期を決める手掛かりになるものはない。出土遺物や遺構の切り合い関係から、遺構はⅣ期 (15世紀中頃から後半) 以降に比定される。



第5-73図 08-SK092実測図 (1/40)

1. 灰黄色シルト質土 (2.5Y6/2)
2. ぶい黄色シルト質土 (2.5Y6/3)



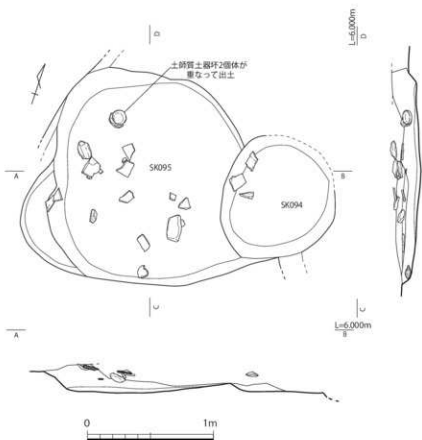
第5-74図 08-SK092出土遺物実測図 (1/3)

08-SK092出土
遺物 (第5-74図)

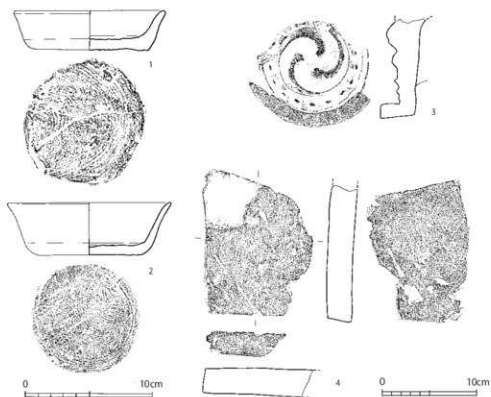
1は瓦質土器の小片で、櫛描き波状文の一部が認められる。2は埴である。

08-SK094・
08-SK095 (第5-75図)

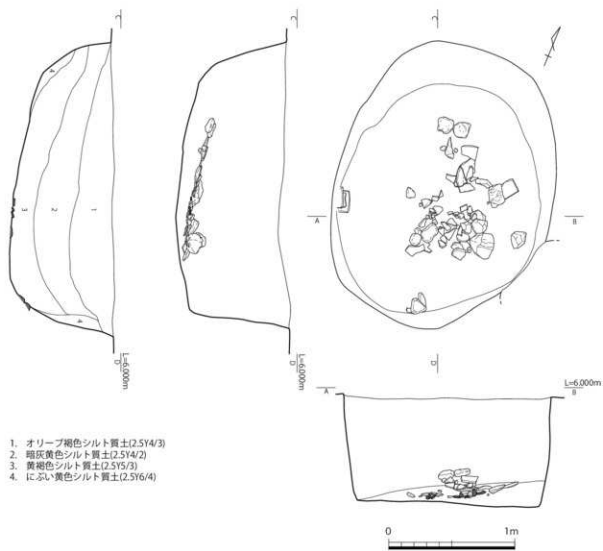
P62区に位置する土坑で、遺構の平面形態はいずれも略円形である。08-SK094の規模は東西0.9m、南北1.0m、深さ約10cm、08-SK095の規模は東西2.0m、南北1.7m、深さ約20cmであ



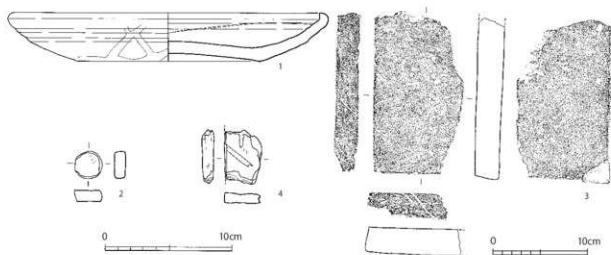
第5-75図 08-SK094・08-SK095実測図 (1/30)



第5-76図 08-SK095出土遺物実測図 (1/3, 1/4)



第5-77図 08-SK103実測図 (1/30)



第5-78図 08-SK103出土遺物実測図 (1/3、1/4)

る。両者は切り合い関係にあり、遺構の構築順序はSK095→SK094である。遺構の埋土は、両者とも炭化物を多く含む。08-SK094の埋土中から少量の瓦類が出土したが、遺構の詳細な時期を決める手掛かりになるものはない。08-SK095からは底面からやや浮いた状態で土器や瓦、礫などが出土した。特に遺構北西から土師質土器坏2枚が重なって出土している。出土遺物から、08-SK095の年代はⅢ期（14世紀末から15世紀前半）に比定される。

土師質土器
坏2枚が重
なって出土

08-SK095出土遺物（第5-76図）

1・2は土師質土器坏で、いずれも口縁部がやや外反する形態を呈する。底部には糸切り痕のほか、板状圧痕が認められる。3は巴文軒丸瓦、4は埴である。

08-SK103（第5-77図）

P62区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西1.74m、南北2.24m、深さ80cmである。埋土は3層に分層されるが、特筆すべき事象はない。底面からやや浮いた状態で、礫や陶磁器、瓦などが出土した。また、底面の一部には礫が外れた痕跡である窪みが認められる部位もある。瓦類や礫の出土状態を観察すると、遺物は北側から廃棄された可能性がある。出土遺物から、遺構の年代はⅥ期（16世紀後半）に比定される。

08-SK103出土遺物（第5-78図）

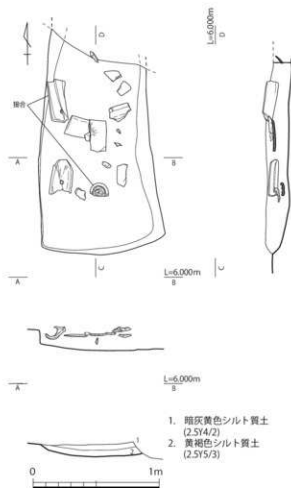
1は備前焼平鉢で、外面に火樺の痕跡が認められる。16世紀後半の製品である。2は土器片を円形に再加工した製品である。3は埴、4は砥石の破片である。

08-SK104（第5-79図）

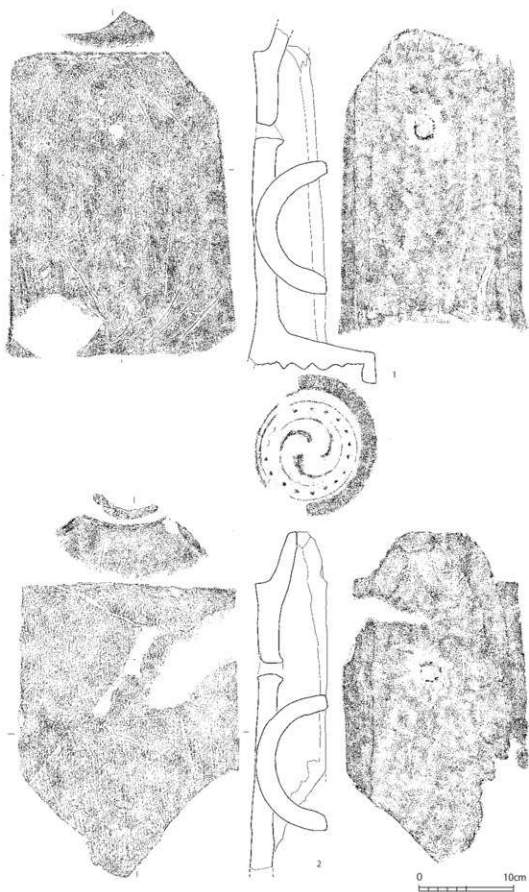
P62区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略長方形を呈する。その規模は東西1.0m、南北1.7m、深さ12cmである。15世紀後半の土坑08-SK088と切り合い関係にあり、遺構の構築順序はSK104→SK088である。埋土は2層に分層されるが、特筆すべき事象はない。遺構上面および底面からやや浮いた状態で、軒丸瓦・丸瓦・平瓦・礫が出土した。瓦は完形品ではないが、大型の破片が多い。軒丸瓦については、約80cm離れた瓦当部と丸瓦部が接合した。瓦以外に遺構の詳細な時期を決める手掛かりになるものはない。出土遺物と切り合い関係から、遺構の年代はⅣ期（15世紀中頃から後半）以前に比定される。

08-SK104出土遺物（第5-80図）

大型の破片である軒丸瓦と丸瓦を2点のみ図示した。1は軒丸瓦で、瓦当文様は巴文である。製作年代は明らかにできていないが、万寿寺の創建所用瓦ではない。丸瓦部には釘穴が設けられている。2は丸瓦で、これについても釘穴が設けられている。



第5-79図 08-SK104実測図(1/30)



第5-80図 08-SK104出土遺物実測図(1/4)

08-SK106 (第5-81図)

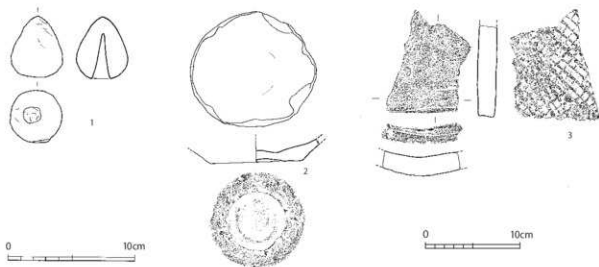
R63区に位置する土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西0.8m、南北1.35m、深さ40cmである。埋土の上位から土師質土器の加工品が出土しているほか、埋土中から少量遺物が出土している。出土遺物の中には、遺構の詳細な時期を決める手掛かりになるものはない。従って、遺構の時期は不明である。

08-SK106出土遺物 (第5-82図)

1は軽石製の製品で、頂部がやや尖る素材に未貫通の小孔が設けられている。2は土師質土器の小皿状の製品であるが、時期・用途ともに不明である。内面にはススの付着が認められる。3は凸面に格子目叩きを施す平瓦で、凹面には布目痕が認められる。8～9世紀代の製品であろう。



第5-81図 08-SK106実測図 (1/40)



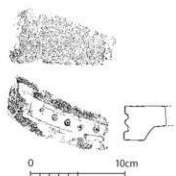
第5-82図 08-SK106出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

08-SK108

R64区に位置する小型の土坑で、遺構の平面プランは略楕円形を呈する。その規模は東西1.4m、南北2.0m、深さ30cmである。14世紀前半の溝08-SD100を切って構築されている。埋土中から瓦片などが出土しているが、これらは本来08-SD100の場属遺物であった可能性がある。切り合い関係から、遺構はⅡ期（14世紀後半）以降の構築と考えられるが、その詳細な年代を明らかにすることはできなかった。

08-SK108出土遺物 (第5-83図)

1は連珠文軒平瓦で、凹面には布目痕が残存している。万寿寺の創建所用瓦のひとつである。



第5-83図 08-SK108出土遺物実測図 (1/4)